

東京外国語大学 国際日本学プログラム—文部科学省「国立大学の機能強化」事業—  
TUFS Program for Japan Studies in Global Context,  
supported by Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology(MEXT)

# 東京外国語大学 国際日本学研究 報告 XI



朝日祥之

(国立国語研究所)

*Yoshiyuki Asahi (NINJAL)*  
*at TUFS, 2018~2020*

東京外国語大学 大学院  
国際日本学研究院

Institute of Japan Studies,  
Tokyo University of Foreign Studies



東京外国語大学 国際日本学研究プログラム—文部科学省「国立大学の機能強化」事業—  
TUFS Program for Japan Studies in Global Context,  
supported by Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology(MEXT)

# 東京外国語大学 国際日本学研究 報告 XI



朝日祥之

(国立国語研究所)

*Yoshiyuki Asahi (NINJAL)*

*at TUFS, 2018~2020*

東京外国語大学 大学院  
国際日本学研究院

Institute of Japan Studies,  
Tokyo University of Foreign Studies

# 東京外国語大学 国際日本学 研究報告 XI

朝日祥之 (国立国語研究所)  
at TUFS, 2018年~2020年

人の移動の社会言語学－日本語の事例を中心として－ .....	1
戦中期のアメリカにおける日本語教育 .....	15
ハワイの日系移民史における日本語の役割 .....	29
離任研究会 講演資料.....	42
▶朝日祥之 (国立国語研究所) 資料.....	43
▶ 杉野紗代 (東京外国語大学 博士前期課程) 資料.....	48
▶ Rezai Baghbidi Hassan (大阪大学) 資料 .....	68
▶ タアーロフ早見表 (作成：杉野紗代) .....	74
▶ チラシ .....	76



# 人の移動の社会言語学

## —日本語の事例を中心として—

朝日祥之(国立国語研究所)

### 1. はじめに

本稿では、人の移動がもたらす社会言語学的事象を日本語の事例を中心に示す。近代化、都市化によってもたらされた人の移動は、言語間、方言間の接触を生み出した。その接触による言語変容は、それまでの言語、または方言に観察されてきた自律的变化とは異なる、よりダイナミックなものである。接触による言語変容は、例えば共通語化のように、地域的な特徴を持っていた言語的特徴が共通語形に変わるようなものを指すことが多い。ただし、その変化の種類、接触に関わった言語、方言間の言語的距離の程度などにより、言語変容の性格が変わることが考えられる。また、その接触をもたらした歴史社会的状況をその要因として捉えなおすと、その要因の種類と言語変容のタイプとの間に見られる相関関係を示すことが可能になる。

本稿はこのような問題意識のもとで、人の移動の持っている社会的意味の類型化を試みる。それにより指摘できる言語変容の方向性を示すことを目指す。以下では「人の移動」が持つ社会的意味を2節で示した上で、3節で実際に言語事象を4つの視点に基づき紹介する。その後、4節で本稿のまとめを行う。

### 2. 「人の移動」の持つ社会的意味

最初に人が移動する社会的意味から考えてみよう。もちろん何の理由もなく、人が移動することはない。人が移動の特性を決める要素を表1にまとめてみた。

表1 人の移動を決める社会的要素

	要素	具体例
1	目的	出稼ぎ, 呼び寄せ, 駐在, 進学, 就職, 移住, 抑留
2	規模	一個人, 特定の集団, 集落, 民族
3	範囲	近隣地区, 国内, 外地, 海外
4	期間	1日, 数日, 数ヶ月, 数年, 一生

表1から人の移動には、その要素である(1)目的(2)規模(3)範囲(4)期間のそれぞれに属する特徴を組み合わせることにより構成される。このようにすることで、例えば、北海道の新十津川村のように、「集落の規模で、国内に、一生(それ以上の期間)過ごすために移住する」ものから、「大学進学のために、東京に一人で、4年間滞在する」というような説明が可能となる。

また、一言で人の移動といっても、一個人の都合によるものから、集団就職、呼び寄せ移住のようなものまで実に多様である。ここに人の移動に関する資料を2,3見てみよう。

図1は、東京や大阪といった大都市への人の移動である。

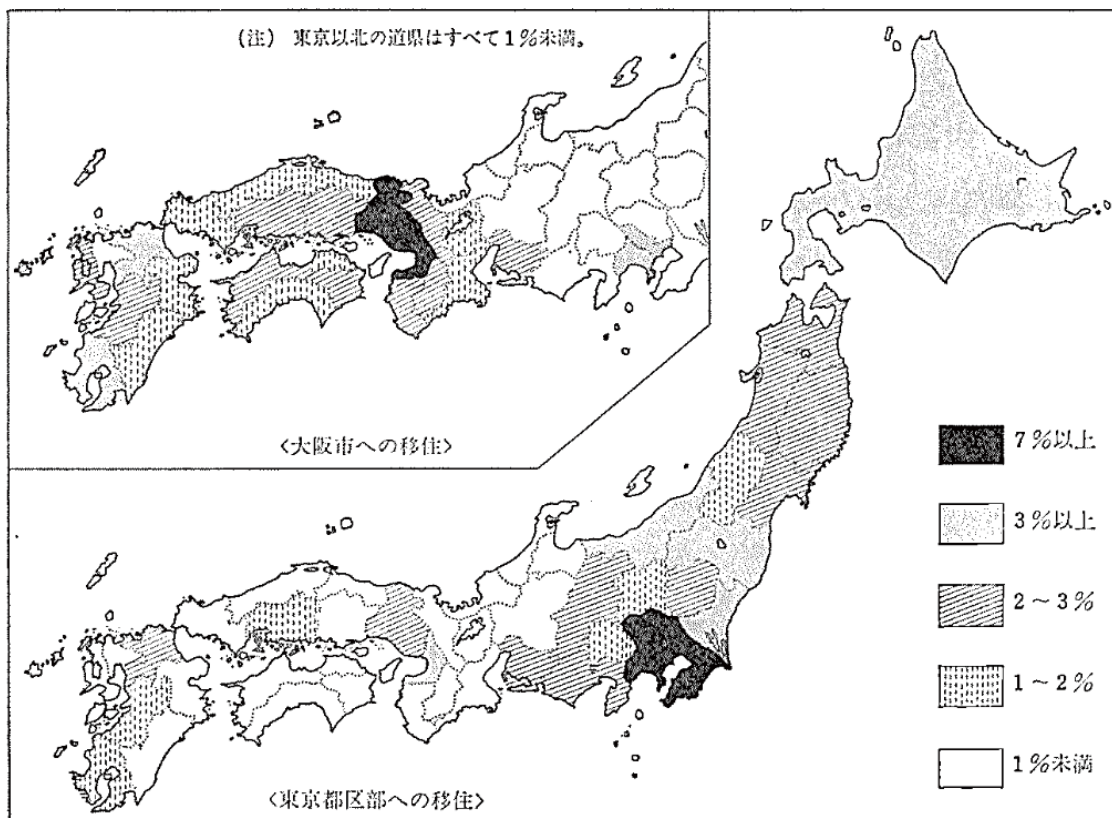


図1 東京都区部・大阪市に移住した人の分布図 (国立国語研究所 1981)

図1から、大都市部への移動に見られる特徴として、東京都区部への移動は北海道・東北地方から中部地方にかけての地域からの人の移動が多いのに対し、大阪市部へ移動は中国・四国地方、九州地方からの人の移動が多い。一言で大都市部への移動といっても、人の移動の範囲は一様ではない。つまり、大都市圏への人の移動をことば(または方言)の移動ととられると、大都市部への方言の移動も多様であるということになる。当然のこと

として、それぞれの都市部で観察される接触現象も異なることが予想される。

次に、人の移動に関して海外に移住した日本人の人口を示した地図を見てみよう(図2)。

この地図は 1937 年に拓務省によって作成されたものである。

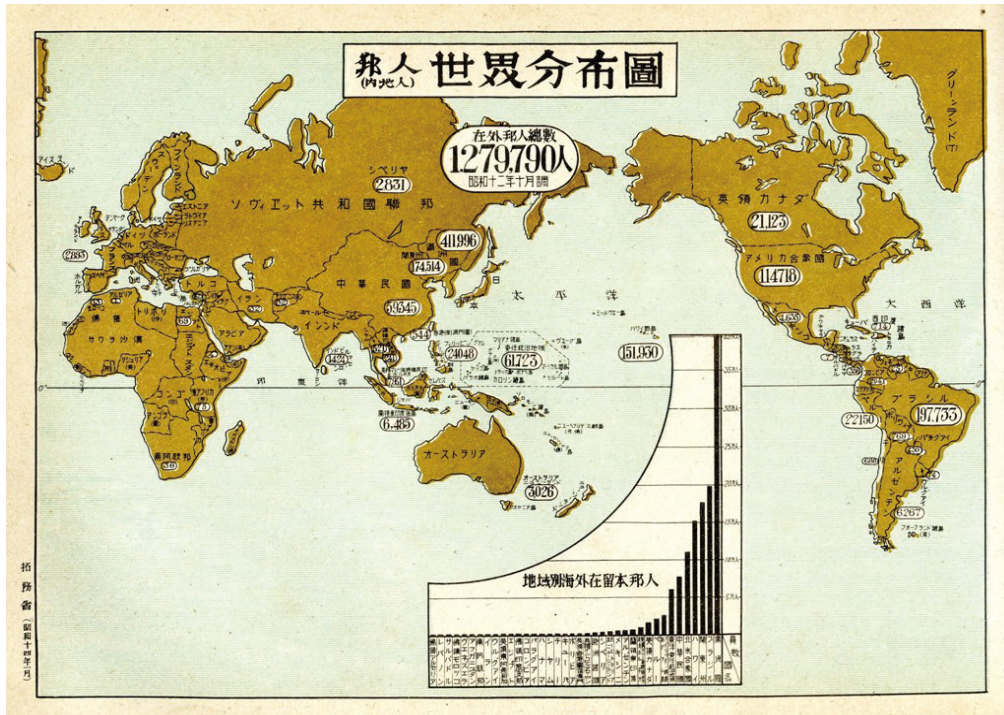


図2 海外に居住する日本人の人口 (拓務省 1939)

図2から、1937年時点で、100万人を超える日本人が日本を離れていることがわかる。もちろんこれには移民として海外に渡った人や植民地に移動した人、仕事や出稼ぎなどで世界各地で生活している人も含まれる。ここで強調したいのは、いずれの地域においても日本語と現地の言語との接触が生じるということである。

近代以降の日本語には都市化、近代化により社会構造の変化による変化が特に語彙面において認められる(田中 2019)が、図2に見るような海外への人の移動は、現地語との接触によりこれまでの日本語に見られなかった言語変化が生じる可能性がある。

また、戦後の日本社会に生じた大都市部への人の移動により生じた人口急増問題に対処すべく大都市部郊外にニュータウンの開発が進んだ。多摩ニュータウン、千里ニュータウンなどが建設され、この人口問題に対処した。神戸市西区にある西神ニュータウンは1982年から入居が開始され、2000年には約53,000人が居住するようになった。居住者の出身

地構成を示すと、表2のようになる。なお、公開されている統計資料には、これに該当する情報がないため、筆者が現地調査で行った聞き取りにより得た情報を用いた。

表2 西神ニュータウン居住者の出身地構成(朝日 2008)

出身地 informant	神戸市	関西 地方	中国・四国 地方	九州・沖縄 地方	関東 地方	中部 地方	合計
人数	84	59	17	12	8	5	185
割合 (%)	45.4	31.9	9.2	6.5	4.3	2.7	100

ここから、このニュータウンには神戸市内からの移住者がもっとも多い。それに関西地方、中国・四国地方、九州・沖縄地方からの移住者が続く。これは図1に示した大阪市部への人口流入に見られる特徴と共通する。

以上、人の移動が持つ社会的な意味を概観した。人の移動により、その人の使ってきた方言も移動するわけである。移動先で観察される方言接触や言語接触、それによって生じる言語変化・変容のプロセス解明が社会言語学における一つのテーマである。長期的に見れば、特に、その地域に特有の言語変種（接触言語、接触方言も含む）の形成（例えば、江戸語・東京語・北海道方言など）へとつながっていく。その言語変種の特徴と移動した人々の郷里方言との関係の検証もこの研究テーマで取り組むべき課題の一つである。次節では、このような人の移動により生じる言語事象を具体例を取り上げながら考察する。

### 3. 「人の移動」がもたらした社会言語学的事象

本節では、人の移動によって生じる言語事象に関連する研究テーマを取り上げながら説明する。本稿で取り上げるのは、次の3つのテーマである。

- (1) 対人コミュニケーションにおけるやりとり
- (2) 移動先で観察される言語（方言）接触と変容
- (3) 新たな言語変種の形成

以下、それぞれについて説明していく。



### 3. 1. 対人コミュニケーションにおけるやりとり

最初に取り上げるのは、言語接触場面における対人的なやりとりで観察される現象である。言語（または方言）背景の異なる話し相手とのやりとりの中で、話者は相手により使用する言葉を調整する。例えば、日本語社会の場合、話者と出身の異なる相手との初対面でやりとりする場合、共通語を使用することが多い。ここでいう「共通語」は、自分自身の方言を使用すると相手に自分の意図が伝わらなくなることを回避するために使用されるものである。つまり、相手への「歩み寄り convergence」としての行動である。反対に「共通語」ではなく、話者自身の方言形を使用しつづけたり、またはその使用を強調したりする場合もある。相手からの「逸脱 divergence」としての行動と呼ばれるものである。このような話し相手との話し手の言語行動に着目したものがアコモデーション理論 (accommodation theory) (Giles 1973) である。

言語変異研究では、このような話者が状況に応じた言語使用域をスタイル変異 (stylistic variation) と呼ばれる。このアプローチによる研究は、発話に対する注意度の程度によって発話の改まり度が決まるモデル、つまり「発話に対する注意度モデル (attention-paid-to-speech model)」(Labov 1966) に始まる。これは関心の中心が発話者自身にあるのに対し、アコモデーション理論、本節で取り上げる「オーディエンス・デザイン (audience design)」(Bell 1984, 2001)などは、分析対象の関心は話者だけではなく、話し相手にあるところに特色がある。

ここでは、このオーディエンス・デザインのアプローチを採用した研究 (Asahi 1998, 朝日 1999) を紹介したい。具体的には、イギリスに居住する日本人 (東京都出身者、および大阪府出身者) の接触場面における言語使用を分析した。調査では、東京出身の話者 (男性と女性)、並びに大阪出身の話者 (男性・女性) による組み合わせを作り、自然発話を収集した。いずれも初対面談話である。話者の組み合わせを表3に示す。表3では東京出身者の男性は「TM」、大阪出身の女性は「OF」などとした。この談話資料を使った分析を行った。ここでは大阪方言話者男性と女性による二拍名詞アクセント (類別語彙の2・3類と4類) のうち、東京型アクセントを用いた率を示す (図3, 図4)。

表3 話者の組み合わせ

	OM	OF	TM	TF
OM	1	2	3	4
OF		5	6	7
TM			8	9
TF				10

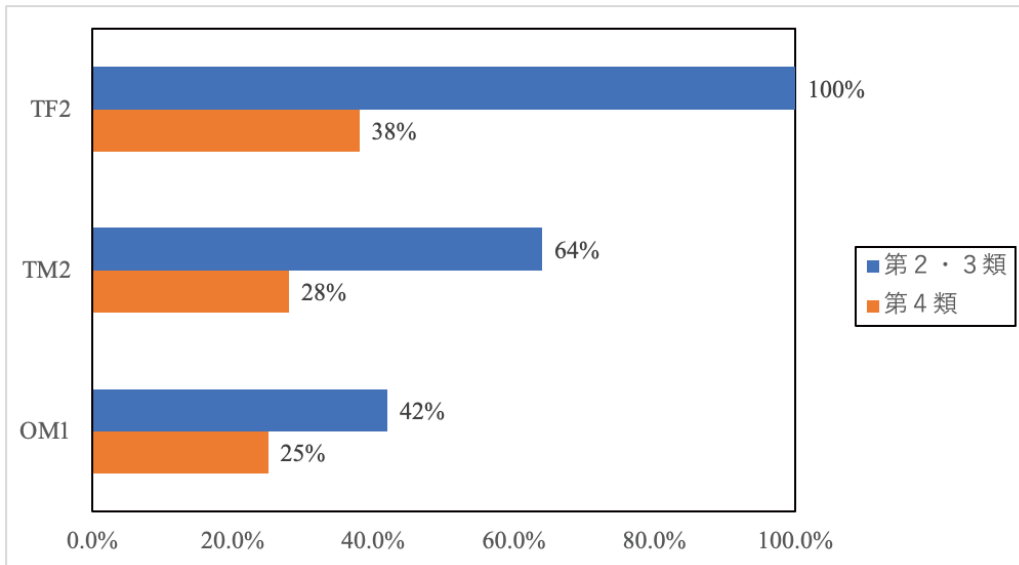


図3 大阪方言話者男性の東京型アクセントの使用率

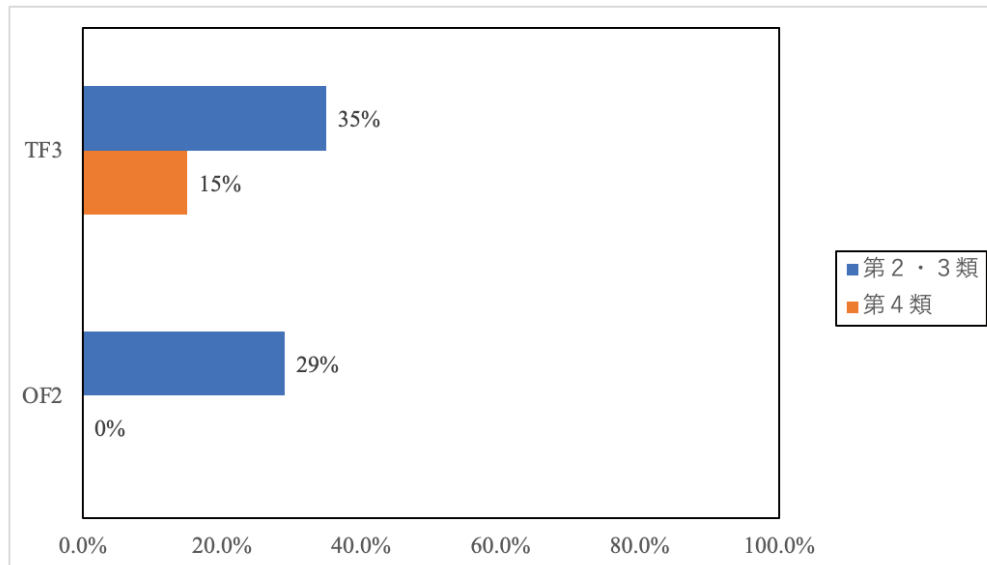


図4 大阪方言話者女性の東京型アクセントの使用率

図3と図4から、いずれも話し相手が東京出身者である場合に東京型アクセントの使用率が高くなることがわかる。加えて、大阪出身者男性の場合（つまり図3）、話し相手が同性よりも異性の方が東京型アクセントの使用率が高くなることがわかった。

### 3. 2. 移動先で観察される言語(方言)接触と変容

前節で取り上げたアコモデーションは、方言接触が生じる状況の中でも、特に発話が生じる状況に限定したものであった。ただ、実際は方言の接触は日常的に生じるものであり、その期間も長期に渡るものが多い。方言間の接触により、次に示すような現象が生じる。

- (1) 方言間の接触による言語変容
- (2) 現地語との接触による言語変容
- (3) コード切り替え
- (4) リンガフランカの形成

以下、それぞれについて説明を試みる。

#### 3. 2. 1. 方言間の接触による言語変容

最初は、方言間の接触による言語変容である。もちろん現在社会において都市部においても農村部においても方言接触は日常的に生じるものである。その中で、方言間の接触の頻度が高いのは、大都市の郊外に建設されたニュータウンである。2節でも取り上げた西神ニュータウン居住者を例に、その特徴を見てみよう。西神ニュータウン居住者と西神ニュータウンに隣接する橿谷町居住者による自然談話資料を用い分析を試みる。ここでは関西方言における否定辞「-ヘン/-ン」とその過去形である「-ヘンカッタ/-ンカッタ/-(へ)ナンダ」の使用率を五段動詞を例に見てみよう。図5と図6にそれぞれの結果を示した。

まず、図6から見ると、橿谷町では関西方言の否定辞が多用されているのに対し、西神ニュータウン居住者では、特に中年層において共通語の否定辞「-ナイ/-ナカッタ」が多用されることがわかる。だが、若年層では関西方言の否定辞が使用されるようになっていることがわかる。若年層に見られるような関西方言の否定辞の使用は、西神ニュータウンがある神戸市であれば一般的である。ただし、中年層に見られた傾向は、方言接触が短期的、または臨時的に生じたためではなく、それが長期化して行く中で観察されることを示している。

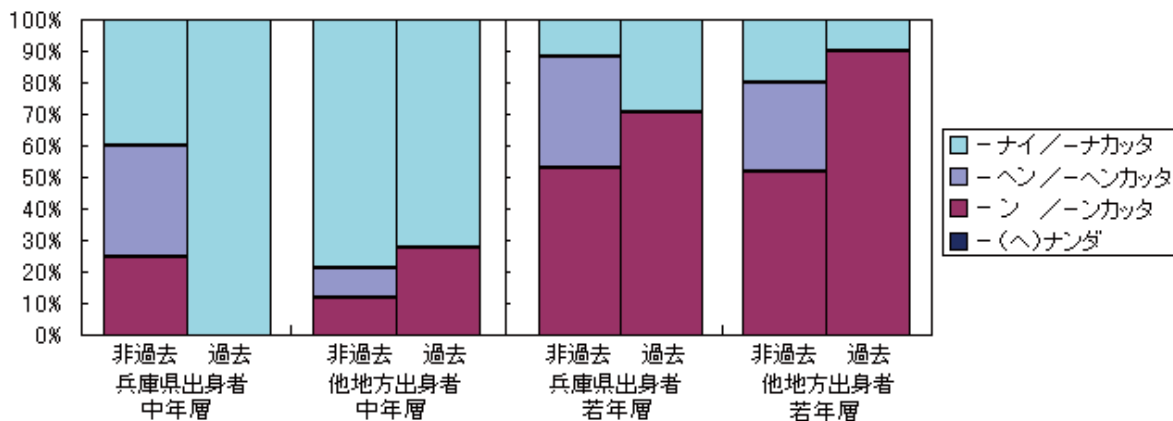


図5 西神ニュータウン居住者による否定辞

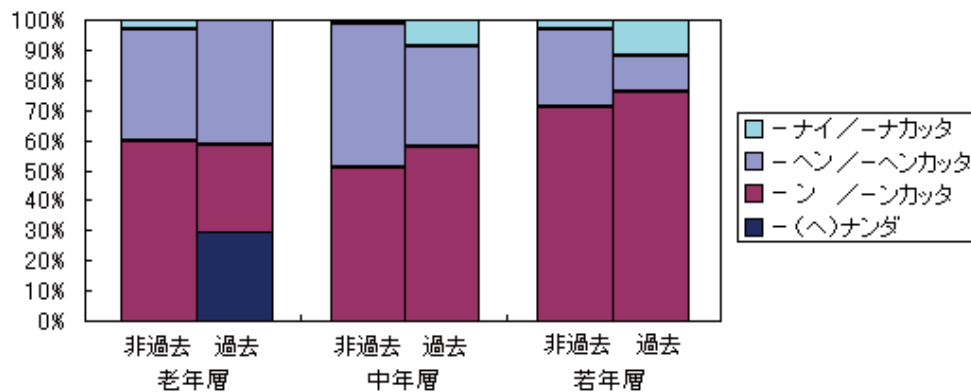


図6 樋谷町居住者による否定辞

### 3. 2. 2. 現地語との接触による言語変容

二つ目は人の移動により生じる現地語との接触による言語変容である。ここでは、海外に形成された日系人社会における日本語の特徴を取り上げる。具体的にはハワイに移住した日本人らによって使用されてきた日本語に見られる特徴を取り上げる。ハワイの日本語における自称詞は例文(1)(2)にあるように、「ワシ」が使われる(黒川 1976, 黒川 1983)。

(1) わしは、こまい時にこの木のようなぼりよった (黒川 1976)

(2) わしが 70 年前のことが・・・頭に浮かんできての (黒川 1983)

この語形(「ワシ」、複数形は「ワシラ」も使用が認められる)は広島方言のものであると言われる。これはハワイに渡った日本人に広島県出身者が多いことと関連する。これと



は別に、例文（3）（4）のようなもの（比嘉 1985）もある。

（3）ミー（me）のハウス（house）にワン（one）刀がある（比嘉 1985）

（4）ユー（you）はトゥーマッチ（too much）食べる（比嘉 1985）

つまり、英語の代名詞（me, you）がここで使用されているのである。このように言語接触が生じる状況で観察される事象の一つに、自称詞、対称詞に現地語が使用されることが確認できる。

この他にも、現地の英語に日本語からの借用語として取り込まれているもの（図7）などもある。これに該当する例はこれだけではないが、日系人社会において、このような日本語起源の語が現地語に取り込まれるものは少なくない。



図7 Bento の使用

また、ハワイのプランテーションに従事する人たちで歌われた労働歌（ホレホレ節）にその特徴を見ることができる。

（5）ハワイ ハワイと 来てみりゃ地獄 ポースは悪魔で ルナは鬼

カネはカチケン      ワヒネは      ハッピーコウ      夫婦仲良く      共稼ぎ  
条約切れるし      未練は残る      ダンブロウのワヒネにゃ      気が残る

この歌詞には日本語の他に、英語やハワイ語の特徴（(6) (7)）が入っている。その例を見てみよう。

(6) 英語起源の語

ボース：Boss（ボス，首領）

カチケン：cut cane（サトウキビを切る）

ダンブロウ：down below（下に，底に）

(7) ハワイ語起源の語

ルナ：監督

カネ：男

ワヒネ：女

このような例は、歌詞に限った話ではない。日常会話にも多く含まれている。その例を挙げると以下の通りである（Ikeda 2016）。

(8) Kaukau bai（ごはんですよ。kaukau「食べる」（ハワイ語）bai「ばい（熊本弁）」

(9) Koppe nome（コーヒーを飲みなさい。koppe「コーヒー」（ハワイ語）nome 飲め）

(10) Hapai go（運んでいく。hapai「運ぶ」（ハワイ語）go（英語）

(11) Me no sabe（私は知りません。Me no は英語，sabe はポルトガル語）

多言語社会における現象としてこのような言語混交が生じることは大変興味深い。一般に言語接触状況ではこのような例は稀でもない。その中で、日本語が関わる言語接触の事例が観察されるのはハワイの日系社会に特有なものである。

### 3. 2. 3. コード切り替え

次に、コード切り替えである。これは同一発話において、文と文の間で生じるコード切り替え (inter-sentential code-switching) と文の中で生じるコード切り替え (intra-sentential

code-switching)がある(Myers-Scotton 1993)。このような事例は言語接触状況において、観察される。Nishimura(1997)はカナダに住む日系二世による談話を用いた分析を行っている。その例は以下の通り(例文は東(1997)より)。

- (12) VY: やすと私が今度 drive 代えたのよね。I was in the fast lane. Of course speed  
出さなくちゃいけないから  
MN: Yeah  
VY: そしたら, there was a car in the left, right lane  
MN: うん  
VY: Two ならんで行ったのよね。Side.  
MN: Uh-huh  
VY: So, I was in the こっちの left lane. それでこう来たの

また、筆者が2000年代に観察できたサハリンに住む日本語話者たちによるコード切り替えも確認できる(朝日2012)。

- (13) もう一回乗る船いぐって△△(地名)さいつでもくるでしょ, パスポート調べに。  
Ещё один раз будет не волнуйтесь, поедem ещё. (もう一度船が出るから心配するな) М  
ного (たくさん) も いっぱい いぐ 人 いるって

このような英語と日本語, 日本語とロシア語とのコード切り替えはいつも生じるわけではない。彼らは日本語も英語もロシア語も言語運用能力は高く, それぞれの言語においても問題なくやりとりが可能である。切り替えをめぐる言語的規則については更なる研究が必要であるが, この現象が観察されるのは, 彼らの言語生活においてもごく限られた場面においてのみである。話者がいなくなる状況であることも鑑みると, このテーマの調査は急いで行う必要がある。

### 3. 2. 4. リンガフランカの形成

最後は言語接触によって共通語が形成されることである。日本語に関しては, 台湾でリンガフランカとしての日本語が使用されることが確認されている(簡2012)。

(14) あの時みんな若いの先生来てるから、みんな fafahi (奥さん, アミ語), あの, 奥さん来ない (閩南語が母語。女性)

(15) gua (私, 閩南語), gua(私, 閩南語) ある。(アミ語が母語。女性)

(16) ここででだいぶんのこの—日本人コウテイシ (エンジニア) なんかいたんでしょ。(アタヤル語が母語。男性) (日本語にない語彙)

これは台湾東部にある花蓮県にある集落 (アミ族の集落に閩南人が居住する集落) で観察されるものである。日本語教育を受けた世代からすれば, 異なる民族間の共通語, つまりリングフランカとして日本語が使用されるのである。ここに報告された事例は大変貴重なものであり, 言語接触研究に大いに貢献するところでもある。

### 3. 3. 新たな言語変種の形成

言語, または方言が接触することによって形成される言語変種は, 世界中に生じているものであるが, 日本語社会においては, 例えば次に挙げる4つが該当するであろう。

- (a) 江戸語 (東京語)
- (b) 北海道方言
- (c) 外地の日本語
- (d) 日本語系クレオール

いずれに共通するのは, 人の移動により形成された地域社会で方言間, 他言語との接触が生じ, それが地域方言として確立したとされるものでもある。ここでは, その全てを紹介することはしないが, いずれも地域方言色の薄い, 共通語としての性格が強いものが多いのが特徴である。

## 4. まとめ

本稿では, 人の移動がもたらす言語 (と方言) 接触によって生じる言語事象をそのタイプを示しながら考察した。人の移動自体はこれから継続するものである。その点において, 言語変容はこれからより多様なものになると考えられる。戦後の日本語史を代表するのが, いわゆる共通語化と呼ばれるものである。地域方言が消失する代わりに共通語形が採用されるものである。この過程を促進させる要因の一つが人の移動である。

その一方で、今後の日本語社会においては、社会構造がより複雑・多様化していくことが予想される。その中で、共通語化という名称だけでは十分説明できない事象を調査研究していく必要がある。その一つのあり方として、例えば、本稿で取り上げた、言語接触研究で取り組まれてきた研究アプローチを援用することが考えられる。現地調査を含めたデータ収集を継続させながら、今後の日本語社会の社会言語学的事象を観察していきたい。

### 【参考文献】

- 朝日祥之 (1999) 「否定の助動詞に見られるアコモデーション—イギリスに在住する日本人の場合—」『日本語研究センター報告』7号 大阪樟蔭女子大学日本語研究センター, 77-90.
- 朝日祥之 (2012) 『海外の日本語シリーズ3 サハリンに残された日本語樺太方言』明治書院.
- 東照二 (1997) 『社会言語学入門 生きた言葉のおもしろさにせまる』研究社.
- 簡月真 (2011) 『海外の日本語シリーズ1 台湾に渡った日本語の現在—リンガフランカとしての姿—』明治書院.
- 黒川省三 (1976) 「ハワイの日本語—一世の人称代名詞使用を中心に—」『言語』5-9.
- 黒川省三 (1983) 「ハワイの日本語」『現代方言学の課題：社会的研究篇』明治書院.
- 国立国語研究所 (1981) 『大都市の言語生活 (分析編)』三省堂.
- 拓務省 (1939) 『拓務時報 (昭和14年度)』拓務省
- 田中牧郎 (2019) 「序 現代の語彙への誘い」飛田良文・佐藤武義編集代表・田中牧郎編『シリーズ<日本語の語彙>7 現代の語彙：男女平等の時代』朝倉書店.
- 比嘉正範 (1985) 「ハワイアン・ジャパニーズ」『言語』14-11.
- Asahi, Yoshiyuki. (1998) *Linguistic Accommodation in a dialect contact setting: in the case of Japanese Residents in the UK*. MA dissertation, Department of Language and Linguistics, University of Essex, UK.
- Bell, Allan. (1984) Language style as audience design. *Language in Society*. 13 (2) : 145-204.
- Bell, Allan. (2001) Back in style: reworking audience design. In P. Eckert and J. Rickford (eds.) *Style and sociolinguistic variation*. Cambridge: CUP, pp. 139-169.
- Giles, Howard. (1973) Accent mobility: A model and some data. *Anthropological Linguistics*, 15, 87-105.

Ikeda, Myra Sachiko. (2016) *A harvest of Hawaii Plantation Pidgin*. Honolulu: Mutual Pub co.

Labov, William. (1966) *The social stratification of English in New York City*. Washington,  
D.C.: Center for Applied Linguistics.

Myers-Scotton, Carol. (1993) *Social motivations for code-switching*. Oxford: Oxford  
University Press.

Nishimura Miwa. (1997) *Japanese/English Code Switching*. Peter Lang Publishing.

## 戦中期のアメリカにおける日本語教育

朝日祥之(国立国語研究所)

### 1. はじめに

本稿では、外国における日本研究・日本語教育の中でも、アメリカにおける日本語教育の歴史、とりわけ、第二次世界大戦中における日本語教育を取り上げる。アメリカでは、戦前期から日本語教育が各地で実施されてきた。一方で東海岸では、東アジア研究の一地域としての日本研究が盛んになされていたハーバード大学、コロンビア大学、イエール大学などで日本語教育が行われ、他方で、日本からの移民の多かった西海岸（カリフォルニア州、オレゴン州、ワシントン州など）では、継承語としての日本語教育が行われてきた。

戦後期から現在に至るまでの時期における日本語教育は、戦時期にアメリカ陸軍・海軍の将校として日本語教育を受け、日本に関する情報収集にあたってきた世代が戦後も日本研究を継続させることと連動する形で実施された。1950年代に始まり、1960年代以降に本格化した日本の高度経済成長による日本語教育ブームが生じた結果、急増した日本語学習者に対する日本語教育の実践、並びに日本語教育研究が活発となった。その後も、世界情勢による日本語学習者の学習動機や目標が変容しつつも、現在に至るまで日本語教育が実施されている。

戦前期から行われてきた日本語教育は、先にも触れたように日本研究者を育成させるための場合と、日本から移住してきた日本人・日系人にとっての「継承語」としての日本語を習得するための場合とに分けられる。継承語としての日本語教育は、アメリカ西海岸の各地で実施してきた。だが、それを除くと、高等教育で日本語が教えられていたのが現状であった。また、日本語学習者の学習動機も、多くの場合、より条件の良い就職先に就くために必要な日本語運用能力を身につけたいという道具的動機 (instrumental motivation) (Gardner and Lambert 1972)が多い。これに加え、近年ではアニメが日本語を学習動機になったケースが増えてきている。

一方、本稿で扱う第二次世界大戦期においては、先に示した学習目標、学習動機とは異なるコンテキストで日本語教育が実践された。そこで、以下では戦時期の日本語教育の具体的な姿を当時の資料を活用しながら説明する。それを踏まえ、その当時の日本語教育によって育成された将校や日系兵たちが果たした役割について考察する。



以下では、2節で戦中期の日本語教育を取り上げる必要性を述べ、3節で戦中期の日本語教育の様子を示す意味で、戦前期の日本語教育の様子を紹介する。4節で戦中期における日本語教育について、ミシガン日本語学校で使用された教材を中心に説明する。5節で今後のまとめと展望を示す。

## 2. 戦中期の日本語教育を取り上げる必要性

本稿が扱うのは、いわゆる有事の日本語教育である。そこに関わる人の生命に直接関わるものである。シラバス設計や教授法の開発などを数年かけて行い、より効果的な日本語教授を実践している場合ではない。まさに、「まったなし」の日本語教育である。いわゆる太平洋戦争は、日本軍が真珠湾への奇襲攻撃により開始されたものである。アメリカからすれば、「突如」始まった戦争である。敵国日本を想定し、日本語情報の収集、分析、アメリカ軍の将校らの日本語運用能力の向上などを、「まったなし」で行う必要があった。もちろん、それまでにハワイ・アメリカに渡った日本人、日系人たちがこの戦争により多大なる影響を受けることになることは言うまでもない。強制収容所に送られた日本人、日系人も少なくなかった。アメリカ生まれの日系二世たちが日本とアメリカとの間で翻弄させられたのもこの時期であった。

では、この時期において、アメリカでは、対日本に対する戦略を立てるのに必要な情報をどのように収集したのだろうか。その情報として考えられるのは、たとえば以下のようなものである。

- (1) 日本軍が作成した情報
- (2) 日本兵の作成したメモ
- (3) 訊問を行う、または捕虜の言動
- (4) 軍事裁判

これらは、まさに戦地で収集、または実施されるものである。当然のことながら、戦地に日本語教師がいるわけではない。アメリカ陸軍の将校や日系兵の多くが従事した通訳兵がアメリカの陸軍日本語学校・海軍日本語学校で短期間で身につけた日本語の知識を総動員させて理解していくのである。

ここで、彼らが実際に目のあたりにした日本語情報を見てみよう。(1)日本軍が作成した情報は、その種類も数も少なくない。その一つが戦地に設営された日本軍基地に残された情報である。ここでは、日本軍が使用した「外邦図」と呼ばれる地図を示す(資料1)。





古文書などを読むための訓練を受けない限り、取り上げられることはまずない。これは、まさに戦時中の日本語教育ならでのことであった。

もちろん、この「くずし字」については、通訳兵の多くにとっては、より身近なものであったことは想像に難しくない。また、通訳兵の中には、いわゆる「帰米二世」と呼ばれる世代がいた。アメリカで生まれた学童期を日本で過ごした彼らからすれば、ここで話題になっている「くずし字」こそ、彼ら自身が使っていたものである。その意味でも、現地で彼らが果たした役割が大きかった（MacNaughton 2006, 朝日 2016 など）。

### 3. 戦前期の日本語教育に見られる特徴

戦前期における日本語教育は、繰り返してであるが、日本研究のため、または継承語教育のために行われてきた。当時の日本研究が盛んに行われていた大学を挙げるとハワイ大学、カリフォルニア大学バークレー校、ロサンゼルス校、スタンフォード大学、コロラド大学ボルダー校、ミシガン大学、コロンビア大学、プリンストン大学、イェール大学、ハーバード大学などである。戦時中においても、これらの大学が日本研究の拠点校として位置づけられた。

一方、アメリカに渡った日本人、日系人たちは、アメリカ西海岸、ハワイ各地に開設された日本語学校に通った。その日本語学校で用いられた国語の教科書は、当初は日本で使われていた国定教科書が用いられたが、その後、アメリカ本土・ハワイで設置された教育会の編纂による日本語教科書（「日本語読本」）が用いられたのである。この「日本語読本」は、アメリカではハワイ版、加州版、シアトル版が存在している。

このような日本語読本の改訂にあたって、（1）イラストを差し替える（2）イラストの差し替えにより、本文の該当箇所をイラストの内容（現地社会の状況を反映させる）に合わせる（3）現地社会の内容に応じた本文の改訂などが行われた。その詳細は稿を改めたい。ここでは、そのうち、現存するハワイ版の日本語読本に注目し、特に日本語読本への書き込みに見られる特徴を紹介する。

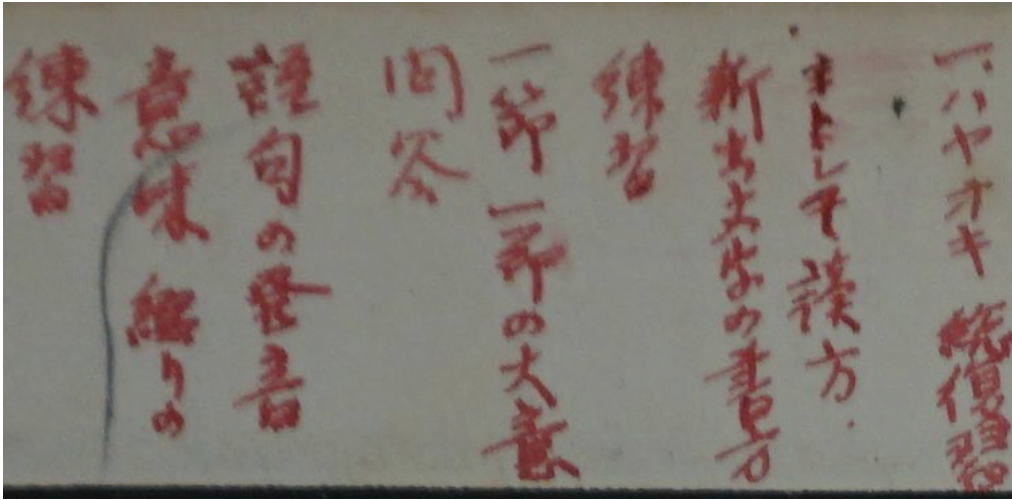
「日本語読本」への書き込みは、日本語学校に通っていた生徒、教師ともに認められる。教師は授業の進め方に関する内容（資料2）が多く、生徒たちは教科書の本文への書き込み（資料3）が多い。生徒の書き込みに多く見られたのが「読み」のわからない語句、並びに「意味」のわからない語句への追記である。

その追記の仕方をめぐる傾向として

- (a) 字種の異なるふりがなを振る (例: ローマ字, カタカナ, ひらがななど)
- (b) 字義を英語で書き込む

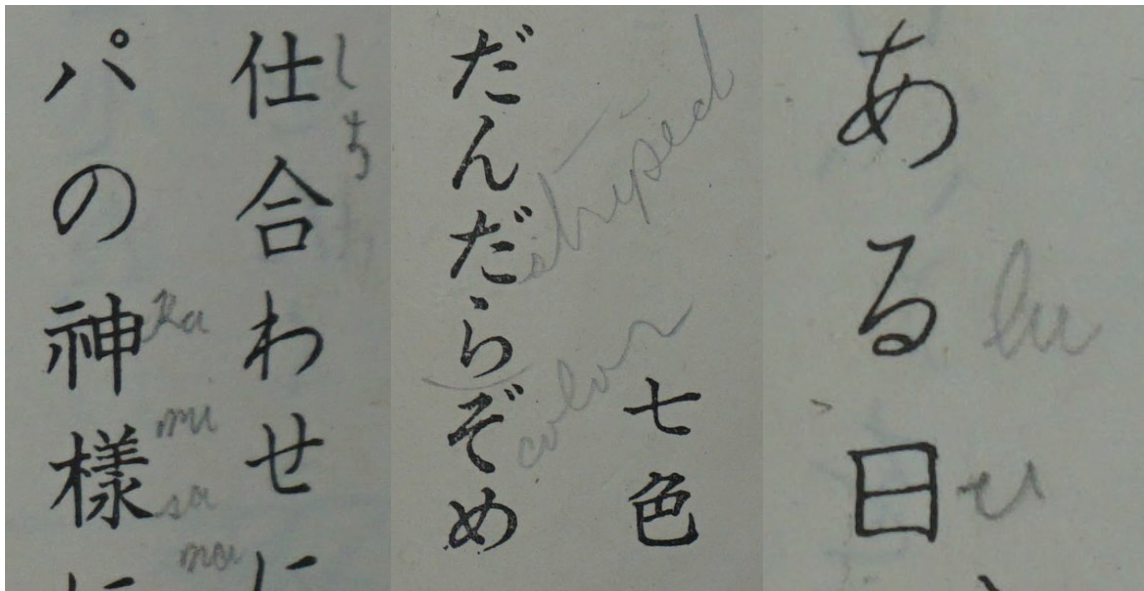
ことが指摘できる。

資料2 日本語読本への教師による書き込み



出典: ハワイ大学マノア校図書館(米国ハワイ州ホノルル市)所蔵  
ハワイ日本語学校教科書コレクション (T-549, p.3)

資料3 日本語読本への生徒により書き込み



出典: ハワイ大学マノア校図書館(米国ハワイ州ホノルル市)所蔵  
ハワイ日本語学校教科書コレクション(左から T-591, p.31; T549, p.34; T557, p.20)

戦前期における日本語教育は、日本からの移民が急増した時期でもあり、アメリカ・ハワイにおいて広く行われてきた。この時期には、アメリカ・ハワイにおける外国語学校の設置をめぐる問題などを受け、日本語学校における国定教科書を現地の状況を反映させる形での改訂がなされたりもした。なお、生徒たちによる書き込みなどは当時の日系人子弟の日本語運用能力を知る上で大変貴重である。

#### 4. 戦中期の日本語教育に見られる特徴

次に、戦中期における日本語教育について述べる。2節でも触れたように、戦時期の日本語教育は、戦地で日本軍の動向、戦略情報を収集・分析するのに必要な日本語運用能力を身に付けさせるために行われた。それでは、戦時期における日本語教育は具体的にどのようなものであったのだろうか。

戦争が開始されてまもなく、アメリカ軍の将校養成のために対する日本語教育が開始された。3節でも触れた、日本研究の拠点校となった大学で日本語を教えていた教師たちは招集され、この日本語教育に従事することとなったのである。

その結果、アメリカでは、陸軍日本語学校がミシガン大学、海軍日本語学校がコロラド大学ボルダー一校に設置され、将校たちがそこで短期間の日本語教育を受けることとなった。その一方で、日系二世たちはミネソタ州にある Camp Savage に招集され、通訳兵になるための訓練を積んだのである。

以下では、その日本語教育の事例として、ミシガン大学に開講された日本語学校を取り上げる。なお同校の活動等についてはパッシン（1981）に詳しい。関心のある方は一読いただきたい。

##### 4.1. 日本語学校で使用された教材

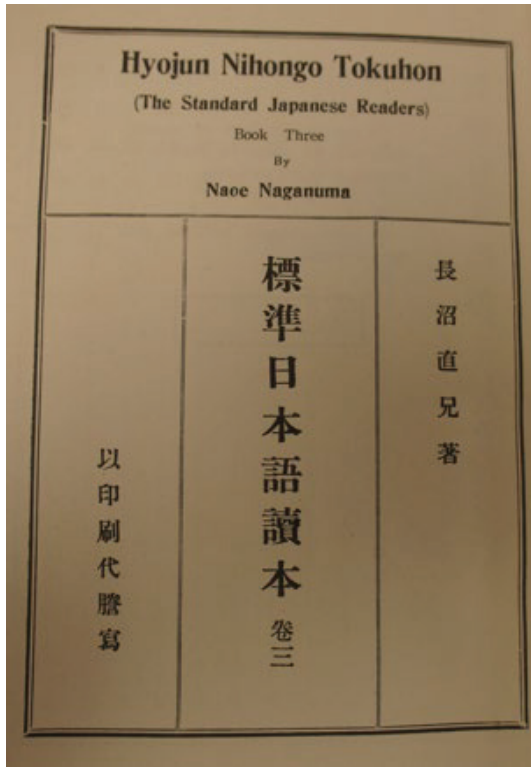
ミシガン大学日本語で使用された日本語教材は実にさまざまである。日本語学校の教壇に立った日本語教師たちによる教材ももちろんあるが、そこで、使用されたのはいわゆる「Naganuma reader」と呼ばれる日本語読本である（資料4）。長沼直兄氏によって作成・編纂された日本語教科書は戦前期において使用された。基本的にはこの教科書が使用されたのである。このような戦前期に刊行された日本語教科書をそのまま使用したのである。

また、この時期にはいわゆる American Edition と呼ばれる辞書類がアメリカ国内で印刷されている。例えば『大字典』や『研究社新和英中大辞典』（資料5）などはハーバード

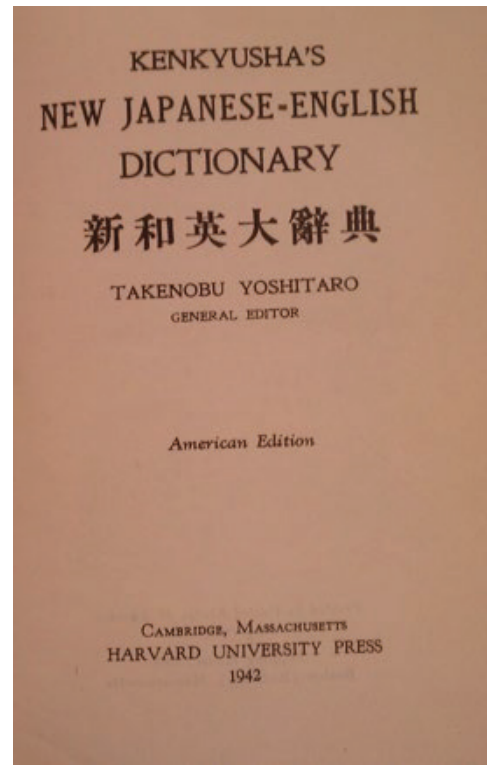


大学出版によって印刷されている。これはいずれもいわゆる海賊版であるが、大谷 (2008) によると『研究社新英和中大辞典』の総発行部数は 1946 年には 1 万を超えたという。

資料4 長沼直兄『日本語読本』



資料5 研究社『新和英大辞典』



このように、戦前期からの教材を再利用したり、海賊版を刊行したりして、日本語学習のリソースを集積していったわけであるが、彼らは自身の経験を活かしながら日本語教材を作成していった。

ミシガン大学日本語学校では、Joseph Yamagiwa (山極越海)によって、日本語教科書が刊行された。そのリストをあげると以下のようになる。

Modern conversational Japanese (Yamagiwa 1942)

The modern Japanese written language (Yamagiwa 1945)

Introduction to spoken Japanese (Yamagiwa 1944)

これらから、日本語の話し言葉、書き言葉のそれぞれについての教材を作成していることがわかる。そのうち、Yamagiwa が編纂した Introduction to spoken Japanese の教科書の

資料6 Introduction to spoken Japanese

COMMON CLASSROOM EXPRESSIONS

- 1
- A. Minásan, ohayo(o) gozaimasu. Good morning, everybody.  
 B. (Sensei), ohayo(o) gozaimasu. Good morning, (teacher).
- 2
- A. Anáta no onamae wa nán desu ka? What is your name?  
 B. Buráun to mo(o)shimasu. I am Brown.
- 3
- A. Ikága desu ka? How are you?  
 B. Arigáto(o) gozaimasu. Okagesama de gánki desu. Thank you. Thanks to you, I'm well.

資料7 The modern Japanese written language

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五	小生は敢て此手段を取る。 問題は餘りに重大なつて内閣はそつちを辭職した。 近々洋行する由。 湖水の水は深々し堪へて居た。 實にかういふ事もある。 両親を早く亡くしたつて彼の苦心は如何許りであらう。 争ひを知らぬ者があらう。 返す返すも残念である。 重ね重ね迷惑を掛ける。 極めて温順な態度。 言ひに他人の事を悪く言つてはならない。 長々とお世話の様になりました。 折柄調査の報告が聞えた。 父は折々東京へ行く。 頻りに催促する。手紙を頻りに書く。 支那語研究の必要を染々と感ずる。	7a 第七章 a 節
--	---	------------------

(Section 7a)

一部を上げてみよう (Yamagiwa 1944) (資料 6)。Yamagiwa (1944)によれば、資料中にある下線部 (例: gozaimasuu) は動詞の無声化を表しているという。

次に、The modern Japanese written language (資料 7) を見てみよう。これは Yamagiwa が、日本軍の資料を解読するのに必要な漢字の知識を定着させるために編纂されたものである。日本語学校では日本語の運用に必要な読み言葉・書き言葉の知識を定着させるために必要な教材の開発が、既存の教材を再利用することと並行して進められた。

先にあげた教材とは別に作成された教材が漢字教材である。先に述べた通り、日本軍の作成した資料を解読するのに必要となるものの一つが漢字の知識である。もちろん当時の資料には手書きで書かれた資料が少なくない。その意味でも、漢字教材の開発が進められた。ミシガン大学にある陸軍日本語学校で作成された漢字教材 (Kanji book for the 1100 characters in the Naganuma tokuhon books I, II, and III) は、ミシガン大学附属図書館 (Bentley Historical Library) の Philip M. Foisie コレクションに所蔵されている。そのリストは同図書館ウェブサイト (<https://quod.lib.umich.edu/b/bhlead/umich-bhl-0436?view=text>) で閲覧可能である。資料 8 はその漢字教材の一部である。

#### 資料 8 漢字資料の教材

居 住居 居間 居候	21	K Y O, k o iru, oru	dwelling, to dwell, to stay to stay
		jūkyō	dwelling place
		ime	living room
		isōrō	a dependent (not a relative)

この漢字教材では、一つの漢字 (ここでは「居」) について、その漢字の読みと意味、また、その漢字が使われた熟語、その読みが日本語 (ラテン文字) と英語で記されている。この教材は Joseph Yamagiwa によると、陸軍日本語学校のスタッフが作成したものであり、そこで掲載された漢字は、長沼直兄の『日本語読本』の巻 1、巻 2、巻 3 のそれぞれで取り上げられた漢字 (巻 1 約 500 字、巻 2 約 300 字、巻 3 約 300 字) である。資料 8 にある数字 (居の場合 21) は長沼の『日本語読本』の出現順に振られた番号である (高田 2017)。

## 4.2. その他で作成された日本語教材

戦中期においては、ミシガン大学以外でも日本語教材が作成された。その作成経緯についてはさらなる調査が必要であるが、ここで著者が収集した教材を紹介する。

### (1) 捕虜訊問のための日本語テキスト Useful words and phrases in Japanese

(沖縄県文書館所蔵) (資料9)

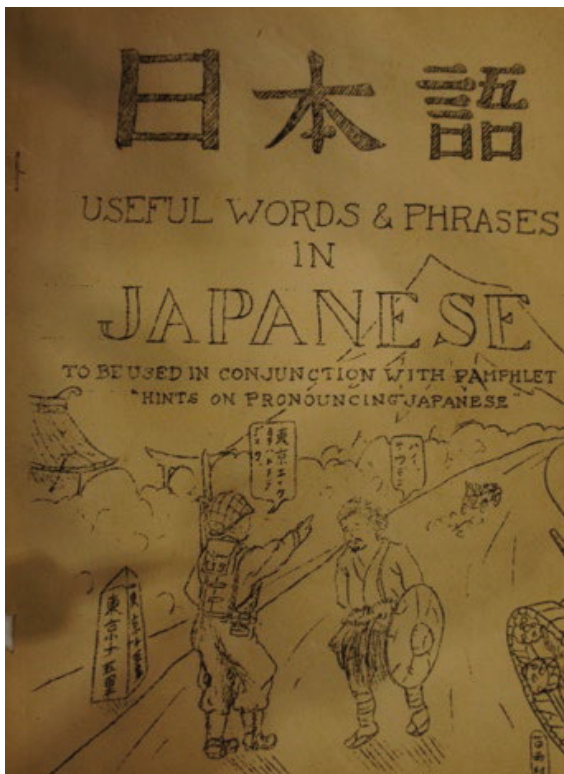
1945年刊行、捕虜に対する訊問のために作成された教材。日本語と英語で作成される。日本軍の階級や基本的な表現、あいさつ表現などが記載される。ただし、これらがどのように使用されたのかは不明。8ページ。

### (2) Japanese: A guide to spoken Japanese

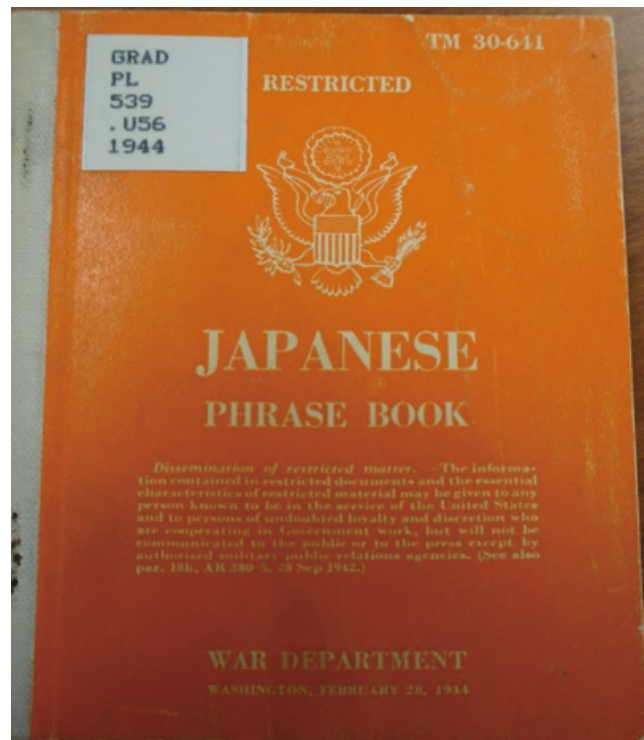
(ミシガン大学図書館所蔵) (資料10)

War department によって1944年に刊行される。日本軍のランクや基本的な表現、訊問や日本人捕虜を監督するために必要な表現などが記載される。184ページ。

資料9 捕虜訊問のための日本語テキスト



資料10 Japanese phrase book





これらの教材に記されている日本語は、基本的にラテン文字で記されている。また、発音についてはヘボン式による表記が一般的であるが、資料 10 はヘボン式とそれ以外の表記で記されている。表 1 はその一例である。

表 1 日本語教材における日本語表記の対照

	Japanese Phrase Book	捕虜訊問のための 日本語テキスト
1	Hee-TOATS	hitotsu
2	FTA-tsoo	futatsu
3	Meet-TSOO	mittsu
4	Yoat-TSOO	yottsu
5	ee-TSOOTS	itsutsu

表 1 の Japanese phrase book にあるような日本語表記は、日本語話者にとっては馴染みの薄いものであるが、英語話者からすると、日本語による実際の音声に近い表し方を採用している点で、役に立つ表記となっている。

Japanese phrase book を見ると、ヘボン式などの綴り方とも異なる、いわゆる音訳に近い表記法が採用されていることがわかる。

1. Koe-koe nee meek-kah ee-mahss
2. Oh-me-yah-gay oh kie-tien dess kay-doe
3. Jah so-roe so-roe she-t'sue-ray she-mahss

これはそれぞれ

1. ここに 三日 います
2. お土産を買いたいんですけど
3. じゃ、そろそろ失礼します

となる。このような書き表し方による日本語教材は管見の限り、ほとんど例はない。戦地での日本人とのやりとりをするのに必要最低限の日本語を短期間で身につけるためには、

特定の日本語の教授法に縛られない、日本語習得のためにあるとあらゆる方策を取ったと考えられる。日本語教材はその試みを集約させたものと言える。

## 5. まとめと今後の展望

本稿では、戦中期のアメリカで実施された日本語教育について、文献資料等を用いながら説明を試みた。戦中期のアメリカでは、敵国である日本に関する情報を収集することを念頭においた日本語教育が実践された。そこでは戦前期に使用された日本語教材をそのまま活用したり、海賊版の辞書を刊行したり、日本語表記に拘らない、学習者の習得のしやすさを視野に入れた表記法を採用したりするなど、緊急時だから可能となった教材作成が進められたと言える。

その一方で、これらの教材がどのように使われたのか、といった学習者の視点からの証言が多くないため、本稿では現存する資料に対する研究者、つまり著者による主観的な評価に基づいた考察にとどまっている点は今後の課題である。このような課題に対するアプローチとして、当時の日本語教材作成に携わった人たちへの聞き取り(キーン・河路 2014 など)に基づいた研究が望ましい。当事者の高齢化は否めないのも事実である。資料調査を中心とした調査研究が今後期待される。

近現代に生成された資料は、その数も種類も多い。後世に残すべき資料の選定、評価などがなされることになる。その際、それぞれの資料に残すべきメタデータが必要となる。本稿で取り上げた資料も、その多くは大学図書館に所蔵されているものであるが、そのメタデータは必要最低限のものしかない。そのため、本稿で取り上げた資料を紹介したくとも、限界があるのも事実である。その意味でも資料を記録させるために必要な情報を一つでも多く整備し、記録することが必要である。

最後に、本稿の中心的課題であった戦中期の日本語教育を受けた世代は戦後のアメリカにおける日本研究を牽引した世代でもある。表 2 はその一部を示しておく。このリストにある研究者の中には、戦前期から日本研究に従事していた人も少なくない。戦争経験、ならびに終戦後日本に生じた劇的な変化を目の当たりにしてきた彼らが日本をどのように見つめてきたのか。これがアメリカの日本研究を推進させた原動力の一つであろう。その彼らにある意味で支えたのがこの時期における日本語教育とも言える。

表2 戦中期のアメリカの日本語教育を受けた日本研究者

	氏名	大学	専門
海軍 日本語 学校	ドナルド・キーン	コロンビア大学	文学
	エドワード・サイデステッカー	コロンビア大学	文学
	ジョン・メスキル	コロンビア大学	日本文学
	ジェームズ・モーレー	コロンビア大学	政治学
	ハーシェル・ウェブ	コロンビア大学	歴史学
	セオドール・ド・パリー	コロンビア大学	哲学
	リチャード・ピアズレー	ミシガン大学	人類学
	ドナルド・シャイプリー	ハーバード大学	文学・言語・思想
	ロイ・ミラー	ワシントン大学	文学・言語・思想
	ロバート・シュウォンテス	カリフォルニア大学バークレー校	歴史学
	トーマス・スミス	カリフォルニア大学バークレー校	歴史学
	デルマー・ブラウン	カリフォルニア大学バークレー校	歴史学
	オーチス・ケーリー	同志社大学	歴史学
	ロジャー・ハケット	ミシガン大学	歴史学
	ロバート・ウォード	スタンフォード大学	政治学
	ジェローム・コエーン	ニューヨーク市立大学	経済学
	ジェームズ・ナカムラ	コロンビア大学	経済史
M I S S	アーサー・ティーデマン	コロンビア大学	日本現代史
	リチャード・スナイダー	コロンビア大学	国際関係論
	ハーバート・パッシン	コロンビア大学	社会学
	レオン・ハーウィック	ワシントン大学	言語学, 哲学
	ロバート・ビュートー	ワシントン大学	歴史学
	ジョージ・アキタ	ハワイ大学	日本史
	ジェームズ・アラキ	ハワイ大学	日本文学
	ロバート・ササキ	ハワイ大学	日本史
	ミノル・シノダ	ハワイ大学	日本中世史
	トム・シブタニ	カリフォルニア大学サンタバーバラ校	社会学
	イワオ・イシノ	ミシガン州立大学	人類学
ハルミ・ベフ	スタンフォード大学	人類学	

## 【参考文献】

朝日祥之 (2016) 「19世紀末から終戦期にかけて活躍した Japanologist と日本語の役割」朝日祥之・原山浩介 (編) 『アメリカ・ハワイ日系社会の歴史と言語文化』東京堂出版.

大谷泰照 (2008) 「英・米出版物の原本と異本」『名古屋外国語大学外国語学部紀要』35号, 1-21.

ドナルド, キーン, 河路由佳 (2014) 『ドナルド・キーン: わたしの日本語修行』白水社

高田智和 (2017) 「ミシガン大学日本語学校における漢字教材について」 *International symposium Spies, Prisoners and Farmers: the origin of the Japanese studies at Michigan*. University of Michigan.

パッシン, ハーバード (著) 加瀬英明 (訳) (1981) 『米陸軍日本語学校 日本との出会い』 TBS ブリタニカ

Gardner, Robert and Wallace Lambert. (1972) *Attitudes and motivation in second-language learning*. Rowley: Newbury House Publishers.

MacNaughton, James. (2006) *Nisei Linguists: Japanese Americans in the Military Intelligence Service during World War II*. Washington DC: Department of The Army.

Yamagiwa, Joseph. (1942) *Modern conversational Japanese*. Ann Arbor: Edwards Bros. Co.

Yamagiwa, Joseph. (1944) *Introduction to spoken Japanese*. Ann Arbor: Edwards Bros. Co.

Yamagiwa, Joseph. (1945) *The modern Japanese written language*. Ann Arbor: Edwards Bros. Co.

---

<sup>i</sup> 写真は中生勝美先生 (桜美林大学) より提供してもらった。

# ハワイの日系移民史における日本語の役割

朝日祥之(国立国語研究所)

## 1. はじめに

本稿では、19世紀末以降、日本からハワイへ渡った移民たちの言語生活史における日本語の役割を、著者がこれまで行ってきた研究活動で収集してきた情報をもとに考察する。ハワイは現在においても日本をはじめとして環太平洋域に住む人たちにとって、観光地として人気があり、現地への移住を希望する者、結婚式を挙げる者、実際に移住する者も少なくない。

太平洋域の中心的な役割をもつハワイには古くからさまざまな地域の民族が往来してきた。特に近代のハワイへの移住は中国やポルトガル、フィリピンをはじめとした地域から行われている。その中でも、日本からの移民がその規模がもっとも多かった。それまで準州であったハワイは、戦後、1959年にアメリカ合衆国50番目の州として立州した。その後も、観光業を基軸とした社会を成立させるなど、新たな変化を遂げていったのである。このように刻々と変容していくハワイ社会で、日系移民たちは生活してきた。「元年者」と呼ばれる最初の移民がハワイに渡ってから150年の間、日系移民たちはハワイ社会の中で生活してきたわけだが、本稿では、この歴史の中で、日本語が果たした役割を日系移民史を四つの時代区分に分けて考察する。

以下では、最初に2節でハワイの日本語の例を紹介した後、3節で元年者の時代、4節で日本からの移民が本格化した時代、5節で戦時中のハワイ、6節で戦後のハワイに分け、それぞれの概説と日本語使用に関する記述を行う。その後、7節で、ハワイ社会の今後と日本語の役割にめぐる著者の見解を述べ、8節で本稿のまとめを行う。

## 2. ハワイの日本語

最初に、ハワイの日本語の様子を示すために、ハワイに移住した日本人たち（つまり一世）のよる日本語談話を示す。この話者（W）は1892年に広島県で生まれ、1913年にハワイに写真花嫁として渡ってきた。この日本語談話は、1985年に二世のインタビュー(IN)により収集された。なお、以下は著者が書き起こしたものである。

- IN: そして、おばさん、それじゃ、何か特別におばさんとか、おじいちゃんとか、特別に、かわいがってもらった人、それじゃ、別にいなかった？
- W: いや、まあ、やっぱり私ら分家でしょうが、本家のおばさんが、おばさんやら、おじさんがようかわいがってくれましたよ。それで私が来るときでもね、晩、夜の2時に出たのところ、そうしたらおじさんとおばさんがな、見送ってくれて、おじさんが、よう見ときんさいよ、いとまごいじゃけ、生き別れじゃけと言いましたよ（笑）。本当に生き別れになりました。
- IN: そして、きょうだいは仲がよかった、おばさん、10人きょうだいで、みんな仲がよかった？
- W: Yeah. 私のきょうだいだけは仲がいいんです。
- IN: 何か覚えてない？一緒にしたこととか、何か田んぼで遊んだこととか。
- W: Yeah. そういうなのがそうなんですの、つるんで遊び暇はないじゃけ。
- IN: なかった。
- W: 忙しいので。
- IN: おじゃめとか、なかった？おじゃめ、こう遊ぶの、昔。
- W: あれはやっぱり何ですよ。brother じゃったら、そんなの遊ばんから。
- IN: 遊ばないね。
- W: フレンド、よう遊びよりましたよ。友達がある、おるからね。
- IN: 少しは仕事をして、やはり遊ぶ時間は少しはあったでしょう、友達とね。
- W: まあ、そう、皆、忙しいんじゃから、農家は。誰も、そう忙しいから、遊ばんでしょうが、それで休みの日があるでしょう。そのときにみんな寄って。
- IN: そして、お父さん、お母さんはどんなんでした？かわいがってくださった？
- W: Yeah イエー。私のお父さんは貧乏はしとったが、人間が優しい人なのよ。そして、仏教の熱心な人よ。それで頭がいいの。

この話者の日本語がハワイで使われている日本語の全てを表しているとは必ずとも言えない。この話者の出身地である広島県はハワイに日本から渡った日本人の中でもその数をもっとも多い県である。この話者 W は、その広島県出身である。なお、このインタビューが行われた 1985 年はこの話者が 92 歳であった。

この話者の日本語には、広島方言で使用される指定辞の「ジャ」であったり、接続助詞の「ケ」、アスペクト表現としての「トル」、否定辞の「ン」と、いずれも広島県を含む西日本の方言で使用される形式が使用されている。

ここで考える必要があるのは、

- (1) 「ハワイの日本語」は、いわゆる「標準語」とは異なり、西日本方言の特徴が使用される理由

である。この理由を検討する上で、

- (2) 日本からの移民史の記述
- (3) プランテーション等での言語生活の記述
- (4) 2世以降の日本語に生じた言語事象
- (5) ピジン、ローカルの中での日本語

を取り上げる必要がある。これらは言い換えれば、ハワイの日本語方言形成にハワイへの人の移動とその歴史がどのように関わったのか、ということ検証するということである。

そこで以下では、ハワイへの日系移民史を捉える試みとして、以下の年代を設定する。

- (1) 最初の移住者の時代
- (2) 移民が本格化した頃～1930年代までのハワイ
- (3) 戦時中のハワイ
- (4) 戦後のハワイ
- (5) ハワイの今後

それぞれについて説明を試みる。

### 3. 元年者の時代

1868年4月にハワイに渡った日本人が、ハワイ日系移民の始まりである。19世紀のハワイではサトウキビ産業が盛んとなったが、欧米人が持ち込んだ疾病により、ハワイの人口減少問題が深刻となった。それにより、サトウキビ産業を支えるための労働力が必要となり、労働力となる移民を呼び寄せることとなった。

最初に渡ったのは、中国からの約1400人の移民たちである。彼らはプランテーションでの契約労働に従事した後、ホノルルに移住することとなった。プランテーションでの労働者不足の問題に直面したのである。そこで浮上したのが、江戸末期の日本であった。ヴァン＝リードによって、江戸幕府との交渉により、約150名の日本人をハワイに連れて行くことで合意し、旅券（パスポート）が発行されたが、明治の新政府はそれを無効としたのである。ヴァン＝リードは、そうとは知らないまま、その150名の日本人を乗せて、江戸を出航し、ハワイに渡った。ハワイに渡ったのが明治元年（1868年）であることから、彼らは「元年者」と呼ばれたのである。



元年者たちは、ほとんどがサトウキビプランテーションに入った。その内訳としては、オアフ島 102 人、マウイ島 33 人、カウアイ島 8 人、ラナイ島 4 人であった。彼らは、炎天下で 1 日 10 時間から 12 時間の労働を強いられた上、ルナ（監督者）に鞭で叩かれたり、病気になっても休みが取れなかったという。その中で契約を終えたものは、日本に帰る帰国組、アメリカ本土に渡った本土組、ハワイにとどまったハワイ組の 3 つに分かれたという。

このうち、ハワイ組の多くは、ハワイ人と結婚し、ハワイに定住した。ハワイ語での生活を続けた彼らは、ハワイ語に流暢になったのである。のちに、日本からの使節団がハワイを訪問した際、ハワイ語と日本語の通訳をこのハワイ組の人たちが行ったのである。日本語が使用されていたことは想像に難しくないが、その詳細は管見の限り不明である。

#### 4. 移住が本格化した時代

元年者たちによるハワイ移民以後、1885 年には日布移民条約が締結され、それにより、サトウキビプランテーションの労働者らが多くハワイに渡ることになった。契約労働者として、官約移民約 29,000 人、私約移民約 180,000 人がハワイに渡っていった。私約移民の場合、日本にある移民送上の民間会社などの斡旋により、多くの労働者がハワイに出稼ぎ労働者として出かけていった。その中には、もちろん多くの収入を得た上で、帰国した者もいたが、体調を崩したり、事業に失敗した者も少なくなかった。

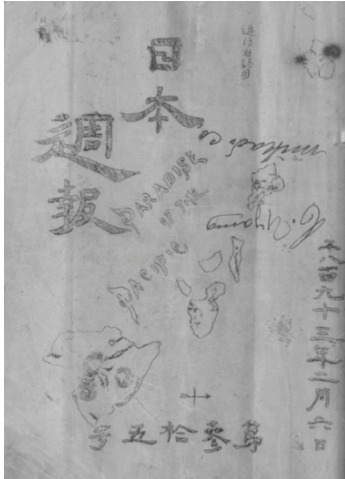
この時期は日本語で書かれた新聞や情報誌などの刊行が進められた時代である。鈴木（2019）によると、ハワイで初めて刊行された日本語新聞は 1893 年に刊行された「日本週報」であった（資料 1）。日本語雑誌は 1896 年に刊行された「やまと」（資料 2）であった。この他、ハワイ島では 1897 年に日本語新聞「コナ反響」（資料 3）が刊行されたのである。

ションでの契約を終えた労働者の多くは、日本に帰国することはせず、ホノルルをはじめとするハワイ各地、並びにアメリカ本土に定住の地を求めた。その後、日本からの出稼ぎ労働者が急増したため、1908 年に「紳士協定（Gentlemen's agreement）」が締結され、日本とハワイ・アメリカへの渡航ができなくなった。当時の労働者のほとんどは男性だったため、定住をするにあたり、結婚相手が必要となった。これを契機として始まったのが、「写真花嫁」である（資料 4、資料 5）。これはいわゆるお見合い結婚の形態の一つで、仲介人が双方の写真を送り合い、婚姻関係を持たせるようにしたものである。結婚することに合意したものは、日本で入籍を済ませ、夫が妻を呼び寄せる形でアメリカに渡航さ



せた。写真を手に渡ってきた写真花嫁らは、アメリカで結婚相手と対面し、そこで挙式を挙げたのである。もちろん、この写真花嫁としてアメリカに渡った女性たちは、現地で対面した相手との婚姻がうまくいく場合もあれば、そうではなかった場合もあったという（Kawakami 2016 など）。

資料1 日本週報



資料2 「やまと」



資料3 コナ反響



資料4 アメリカで婚姻の手続きをとる女性ら



資料5 アメリカに渡航した写真花嫁



(Densho Encyclopedia photo collection (ID: left: ddr-densho-41-1 right: ddr-densho-41-3))

柳澤(2009)によると、1915年から1919年までの間、日本からアメリカ各地（サンフランシスコ、ロサンゼルス、シアトル、ポートランド、ホノルル）に渡った写真花嫁は1万人を超える。表1は、外務省外交資料館所蔵資料に基づき柳澤（2009）で示されたものである。

ここで示された「証明書」の発給数が 13,212 である。1915 年から 1919 年の期間に 1 万人を超える花嫁たちが太平洋を渡ったのである。

表 1 「写真結婚婦人」呼び寄せ証明書発給数 (柳澤 2009)

	1915年	1916年	1917年	1918年	1919年	計
サンフランシスコ	736	508	660	699	469	3,072
ロサンゼルス	160	308	232	344	286	1,330
シアトル	148	151	211	283	230	1,023
ポートランド	101	125	141	145	93	605
ホノルル	1,684	1,459	1,662	1,392	985	7,182
計	2,829	2,551	2,906	2,863	2,063	13,212

ここで、この当時の日本語の特徴をいくつか取り上げる。最初に取り上げるのは、このサトウキビ・プランテーションの労働者の間で歌われていた労働歌「ホレホレ節」である。ハワイのサトウキビプランテーションには、日本人労働者の他に、ポルトガル人、中国人、韓国人、フィリピン人、ハワイ人などが従事していた。そこでは、それぞれが持ち込んだ言語による言語接触が生じた。

「ホレホレ節」の「ホレホレ」はハワイ語で「剥ぐ」という意味で、枯れたサトウキビの葉をはぎとる作業を指す。この歌は、当時の国際情勢、劣悪な労働環境を嘆いたものである。言語的特徴としては、「ホレホレ節」の歌詞にハワイ語、日本語、英語が混在していることが挙げられる。「ホレホレ節」が労働歌であることもあり、その歌詞は実にさまざまである。ここでは、その一つを示す。なお、下線部は英語、イタリックはハワイ語である。

ハワイ　ハワイと　来てみりゃ地獄  
ボースは悪魔で　ルナは鬼  
カネはカチケン　クヒネはハツパイコウ  
夫婦仲良く　共稼ぎ  
条約切れるし　未練は残る  
ダンブロウのクヒネにゃ　気が残る

この歌詞の、日本語がベースとなっているが、英語とハワイ語の要素が入っている。英語によるものから見ると、ボースは boss, カチケン is cut cane, ダンブロウは down below と

なる。ハワイ語はルナ(luna)は監督, カネ(kane)は男性, ワヒネ(wahine)は女性, ハッパイコウ(happaiko)は, 刈り取ったサトウキビの運搬作業を指す。

次に, 当時のハワイのプランテーションで使われていたピジンの例を Ikeda (2017)から取り上げる。まず, その例を表2と表3にまとめておく。

表2 ハワイプランテーションピジンの語例

語形	日本語	英語	出自言語
baka brain	バカ	Stupid brain	日本語・英語
buta kaukau	生ゴミ	Pid food	日本語・ハワイ語
buta kaukau can	ゴミ箱	Pid food can	日本語・英語・ハワイ語
chittobit	少し	Little	日本語・英語
chawan cut	マッシュルームカット	Haircut	日本語・英語
hanabata	鼻水	Liquid nasal mucus	日本語・英語
hotsui/hotsui	暑い	Hot	日本語・英語
koppe yama	コッペ山	Coffee mountain	ハワイ語・日本語
oku no camp	奥のキャンプ	Camp beyond	日本語・英語
soda mizu	コーラ	Soda water	英語・日本語
sukoshi bit	少し	Little	日本語・英語

表3 ハワイプランテーションピジンの文例

語形	日本語	英語	出自言語
Ano kanaka wa mi no aikane	あのハワイ人は私の友人です	That Hawaiian is my fiend.	日本語・英語・ハワイ語
Issho ni wai wai shinasai	一緒にお風呂に入りなさい	Go take a bath together	日本語・ハワイ語
Kau kau bai	ごはんですよ	Come eat	ハワイ語・日本語
Mi mo no sabe	私も知りません	I too don't know	日本語・英語・ポルトガル語
Light tsuketemo ee?	電気をつけてもよろしいでしょうか	It is alright to turn on the light?	日本語・英語

表1と表2から、ホレホレ節の歌詞だけではわからない、多くの例が認められる。その例を見ると、日本語と英語、日本語とハワイ語、ポルトガル語の要素が入った語形や表現が存在していることがわかる。また、「kau kau bai」の「バイ」はいわゆる九州方言の語形「バイ」である。単に日本語といっても方言形が使用されているのは興味深い。ハワイに渡った日本人に西日本出身者が多いことが関係していると思われる。

最後に、日本語学校について取り上げたい。ハワイでは1896年に最初の日本語学校が設置され、日本語学校の設置が進められた。これは写真花嫁がハワイに渡り、結婚した家庭に生まれた子供たちを預かる機関の設置が要望されたことと関係している。日本語学校では、国定教科書が当初使用されていたが、のちに布哇教育会、本派本願寺学務部による日本語教科書編纂が進められていった。

## 5. 戦時中のハワイ

真珠湾攻撃にはじまった第二次世界大戦により、ハワイの日系社会は大きく変容した。開戦後まもなく、アメリカ西海岸を中心に行われた強制収容所への収容はハワイでは行われなかった。ただし、その収容は全く行われなかったわけでもない。その詳細は秋山(2020)に譲るとして、ここではハワイの抑留所の概要を示すにとどめる。

日系人の強制排除・収容計画の一部としてハワイ諸島に住む日本人、ならびに日系人、約2,000人が対象となった。つまり「敵性外国人」とみなされた日本人(日系一世)と戒厳令により「危険とみなされた」日系二世たちである。日系二世の中でも特に帰米二世たちがその対象となるケースが多かった。帰米二世とは、アメリカで生まれたのち、学齢期を日本で過ごしたのちにアメリカに戻った世代を指す。その彼らを抑留させた抑留所がハワイのオアフ島に2箇所設置された(図1)。それがホノウリウリ抑留所とサンドアイランド抑留所である。この抑留所に関する調査研究は近年始まったばかりである。それらにより、当時の言語生活の記述が進められることを期待したい。

戦時中の日本語教育については、すでに本報告書(『戦中期のアメリカにおける日本語教育』)で言及しているため、割愛する。しかしながら、この時期のハワイの日系社会において、アメリカ軍に入隊した日系二世たちで構成される部隊(第100歩兵大隊など)がヨーロッパ戦線やアメリカ収容所での慰問に派遣されたほか、沖縄戦で通訳兵として配置され、現地の島民たちの救出に当たったことは取り上げたい。

このうち、特に沖縄出身の帰米二世たちの中で、アメリカ軍兵として沖縄戦に参加したものがいた。主に通訳兵として現地に入った帰米二世たちは、日本語のみならず、琉球語を使いながら島民とやりとりしたことが知られる。その一人である比嘉太郎は、島民に対



図1 オアフ島に設置された抑留所の位置

し、「わんねー、島袋んちゅぬ喜舎場小学校いじたる比嘉太郎やいびーん信じてい、いじみそーれー」（比嘉 1982）と島民に声をかけ、救出したという。その彼らは、戦後の沖縄復興を実現させるべく、物資（豚・山羊・衣類など）をハワイから沖縄に送り届けたことでも知られる。

## 6. 戦後のハワイ

戦後のハワイの日本社会は基本的にはアメリカ化が進んだ時期であった。日系人（日系2世、3世）が日系社会で主要グループとなっていく（Adachi 1996）。それは日系社会の英語化という意味でもあった。その一方で日本語学校は継続し、継承語としての日本語教育は継続していった。現在においても、マノア日本語学校などの日本語学校が存在している。この英語化の影響を受け、戦後のハワイの日系社会において日本語雑誌や日本語新聞の数、



発行部数も少なくなった。その中でも現在まで刊行が続いているのが「ハワイ報知」である（資料6）。

この英語化が進む中で、日本語の刊行物が必要であった理由として、もちろん日本語の方が英語よりもその運用能力が高かった日系一世の存在も大きいですが、戦後のハワイ社会における主要産業として急成長した観光業に従事する戦争花嫁と呼ばれた日本人女性たちの存在が挙げられる。戦争花嫁とは終戦期のGHQ占領期に日本に滞在した軍人たちと結婚した女性たちである（島田2009）。占領期後にアメリカに帰国した配偶者とともにアメリカに渡った戦争花嫁のうち、離婚した人たちが少なくなかった。その彼女たちがハワイの観光業に従事することになったのである（鈴木啓 p.c.）。

ハワイを訪問する人の多くは、観光や挙式、ハネムーンで出かけるが、これは戦後のハワイに顕著となる。戦争花嫁たちは、ハワイを訪問する日本人を対象とした仕事についている。彼女らは日本語による情報が必要であったのである。

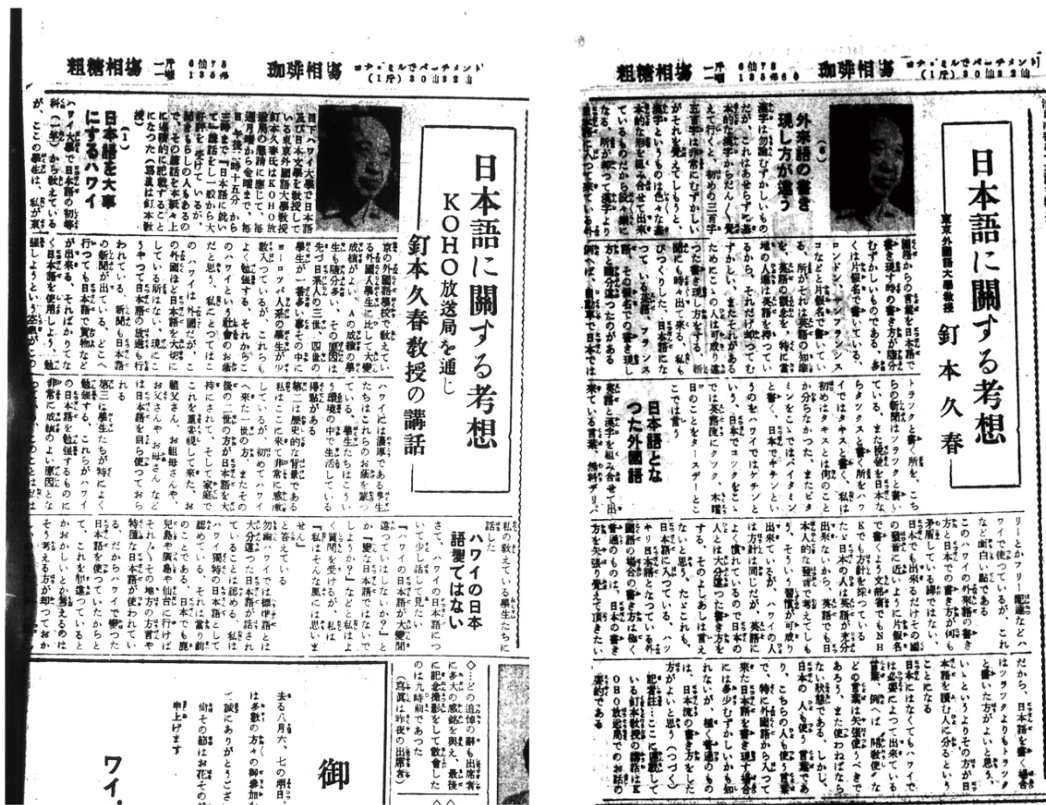
資料6 ハワイ報知





また戦後の日本語新聞を見ると、ハワイの日本語に関する記事が存在する。1965年8月にハワイタイムスに、「ハワイの日本語に関する考想」に関する連載記事がある。ハワイの日本語放送局であった KOHO 放送局での放送記録をきっかけとして企画された。ハワイタイムスには東京外国語大学の釘本久春教授による講話の抄録を見ることができる(資料7)。

資料7 ハワイタイムス掲載の「日本語に関する考想」記事



出典:ハワイ大学マノア校図書館(米国ハワイ州ホノルル市)所蔵

### 7. ハワイの今後

ハワイ社会は変貌をとげている。さまざまな民族が往来したこの島が有するのは「ローカル」としてのアイデンティティである。「ローカル」アイデンティティは、戦前期のハワイにおいて、白人系の経営するプランテーションに労働者として従事した移民(日系、韓国系、中国系、プエルトルコ系、先住民)が定住する中で、ハワイで生まれ育った移民の二世や先住民たちは、同じ階層に属するものとして、親の出身国や文化の違いを乗り越

えたアイデンティティを共有するようになったものである（宮崎 2004 ほか）。もちろん、日系人もこの「ローカル」アイデンティティを支えるグループの一つである。さまざまな文化が存在するハワイ社会には、日系社会の存在を示す要素は少なくない。その一つの例がハワイ英語に取り込まれている日本語起源の借用語であろう（資料 8）。

資料8 ハワイ英語に取り込まれた日本語起源の借用語



資料 8 で使われている bento や furikake などの日本語起源の借用語は現地の言語生活でも使用されている。また、このような「ローカル」としてのアイデンティティは、日系社会の人たちにとっての郷里との関係にも当てはめられる。例えば、沖縄系移民たちが形成しているネットワークは、一つの社会に止まることはなく、その範囲は世界規模にもなる。その中でも、南北アメリカの沖縄系移民の間では国境を超えた、つまりトランスナショナルなネットワークを形成している。

この他にも、世界各地で開催される「世界のウチナンチュ大会」やオアフ島ホノルル市で毎年開始される「Hawaii Okinawa festival」などが開催されている。また、沖縄系移民により始められた店（Times supermarket や Zippy's など）もある。ハワイに住む沖縄系移民にもまさに「ローカル」としてのアイデンティティがあり、ハワイ社会に根付いている。

## 8. まとめ

本稿では、ハワイの日系移民史を時代区分を設定した上で概説を試みた。その上で、それぞれの時代における日本語の役割を、具体例を示しながら考察した。「元年者」に始ま

る日系移民の歴史は、ハワイ社会に大きな影響を与えた。日本語話者も増加し、日本語新聞や日本語雑誌が編纂された。日本語学校が設立され、日本語教育が実施された。第二次世界大戦以後は、アメリカ化が進んでいく一方で、ハワイの日本語をめぐる状況は変化していった。この流れはハワイで形成された「ローカル」としてのアイデンティティに貢献していくものであることを示した。

今後は、日系移民史において、特に日本人が増加していった時代における日本語の特徴分析を行い、現在ではほとんど耳にすることができなくなった、ハワイの日本語の言語的特徴の解明に取り組んでいきたい。

### 【参考文献】

- 秋山かおり (2020) 『ハワイ日系人の強制収容史 太平洋戦争と抑留所の変遷』 溪流社
- 島田法子 (2009) 『写真花嫁・戦争花嫁のたどった道：女性移民史の発掘』 明石書店
- 鈴木啓 (2019) 『ハワイの日本語新聞雑誌事典 1892-2000』 静岡新聞社
- 比嘉太郎 (1982) 『ある二世の轍』 日貿出版社
- 宮崎江里香 (2004) 「日系アメリカ人の「ローカル」アイデンティティをめぐる一考察: Rice 対 Cayetano 裁判と多文化社会ハワイ」 『多元文化』 4, 179-90
- 柳澤幾美 (2009) 「「写真花嫁」は「夫の奴隷」だったのかー「写真花嫁」たちの語りを中心に」 島田法子 (編著) 『写真花嫁・戦争花嫁のたどった道：女性移民史の発掘 (日本女子大学叢書 7)』 明石書店, pp. 47-85
- Adachi, Nobuhiko. (1996) *Linguistic Americanization of Japanese-Americans in Hawaii*. Osaka: Osaka Kyoiku Tosho.
- Ikeda, Myra Sachiko. (2017) *A harvest of Hawaii plantation pidgin: The Japanese way*. Honolulu: Mutual Pub Co.
- Kawakami, Barbara. (2016) *Picture bride stories*. Honolulu: University of Hawaii Press.

## 講演資料

朝日祥之准教授 東京外国語大学 離任研究会

タアーロフを知る，タアーロフから学ぶ：  
ペルシア語と日本語の待遇表現に見られる  
面白い関係性

開催日時：2020年2月8日（土） 13時～15時

開催場所：東京外国語大学 府中キャンパス 研究講義棟 320（会議室）



▶ 朝日祥之（国立国語研究所） 資料



ありがとうございます！

## 今日の研究会

何かの研究発表をするものではありません

最先端の研究紹介をする場でもありません

## 「離任研究会」なので

外大での在職期間中（2カ年度）に学んだこと  
多くの大学院生たちとの面談（レポートの内容＋研究相談）  
（みなさん、ありがとう！）

学んだことの一つ＝「タアーロフ」(ta'ārof)  
タアーロフ＝面白そうだけど、難しいそう



## タアーロフ

学生の話をしていると、どこかで日本語の待遇表現（待遇性）と共通するところがあるような気がする

どのような点で似ているのか、どこが違うのか気になった

## そこで

タアーロフの面白さを教えてもらう

ペルシア語学の先生

(1) **レザーイー バーグビーディー ハサン先生**

ペルシア語学を専攻する大学院生

(2) 杉野紗代さん

日本語学の立場から

(3) 朝日祥之

## バーグビーディー先生とは



## 今日の構成

2部構成です。

第1部：タワーロフを知る

第2部：タワーロフから学ぶ

二人の先生方に話してもらいます（日本語・英語）

朝日は適宜話します。

質疑応答の時間も

どうぞよろしく申し上げます。

▶ 杉野紗代 (東京外国語大学 博士前期課程) 資料




タアーロフを知る,  
タアーロフから学ぶ

：

ペルシア語と日本語の待遇表現に  
見られる面白い関係性

東京外国語大学大学院  
世界言語社会専攻1年 杉野紗代



タアーロフを  
知る

タアーロフの面白さとは？

## 突然の質問ですが、みなさんならどうしますか？

- あなたはイラン人と一緒に戸口に居ます
- お互いに同じ入り口から中に入ろうとしています
- あなたならどのように入りますか（選択肢から）
- なぜそのような行動を取ろうと考えましたか

<選択肢>

必ず自分が先に入る / 必ず相手に先を譲る /

相手の様子を見つつも、自分が先に動けそうであればまず自分から入る

## Situation 1 The Doorway

## 典型的なタアーロフ： エレベーター前で譲り合い

- 男性は女性に先を譲る
- 若い人は年配に先を譲る
- 同年代であった場合、どちらが先を譲るかは自由→右側にいる方が先に行く

## タアーロフを考えてみる

- みなさんでチャイを受け取る時のタアーロフを見てみましょう！
- 実際にタアーロフを体験してみましょう！



## タアーロフとは？

- 儀礼的な待遇表現のひとつで、敬体／普通体のどちらを用いてもタアーロフを表せる
- 会話場面で出現する
- 非言語行動／言語行動になって現れる
- 人を招待する場面／挨拶の場面／食事の場面／その他、相手を気遣うことでもてなそうとする場面に多く登場する
- タアーロフは日本人の「建前を使う時の意識」に似ているが、それでも日本人には理解しづらいタアーロフも多数存在する。
- 本研究会では便宜的に「お互い気を使う必要のない水入らずの遠慮のない関係であるため、聞き手は話し手に構わず、自分にとって心地の良い／気楽な方法でいてください」という意識を標示させるためのものと定義する

## 実際にイラン人にタアーロフ事情を聞いてみましょう！

- お互いにタアーロフを言い合う場面はどのような場面でしょうか
- イラン人同士でタアーロフが理解できないことはありませんか？

## イラン人同士でさえお互いのタアーロフを完全に理解するのは不可能

- 発話だけをもとに、話し手がどのような発話意図を持ってタアーロフを述べているのかはわからない。論文の事例を持ってくる

## でも、タアーロフは面白い！

- イラン人にとって、タアーロフは「敬意」表現であるとみなされている
- その一方、タアーロフを用いて言葉遊びとしてのユーモアさを標示することも、相手をだましたりうまく利用したりする目的のためにおだてる方法として用いることも可能
- イラン人は生活の中でごく自然にタアーロフを使い、また、タアーロフを使うことで話し手聞き手の関係をより友和的にさせる側面も持つ。



## タラーフの難しさは、 ① ペルシア語独特の「建前」にある

お客さんが自分の家に訪問してきたとき・・・

自分がお客さんに対して、家の中でも高価なもの・大切なもの（絨毯など）を差し出すときがある。

参考：mehman-e maman (Mum's guest)

<https://www.imvbox.com/watch-persian-movie-iranian-movies/mums-guest-mehmane-maman/play-film> 1:24:43



## ② タアーロフの話し手は、発言した内容に責任を取るとは限らない

- 「エンシャッター、明日までにリビングライトを修理するよ」  
→しかし、実際に明日までに修理工がやってくるとは限らない
  
- イラン人インフォーマントの意見「相手を喜ばせたい一心でつい言ってしまう」

## タアーロフかどうか判断しづらい場面がある

- メフマーンナヴァーズィー（おもてなし）の文化
- テヘランで・・・→ピザを注文したらサラダを奢ってもらえた
- エスファハーンで・・・→薬局で風邪薬が欲しいと言ったら薬をタダでもらえた

でも、タアーロフの場合

- テヘランで、タクシーから降りるとき「お代は要りませんよ」と言われる  
・・・→相手の言葉は建前だと思わなくてはならない

## タアーロフは必ずしも建前性をもつとは限らない

- 聞き手が、話し手のタアーロフの発話意図を推察するのは難しい（同じ言葉に見えて本音と建前の両側面があるから） →日本語でも同じ
- 自分がタアーロフを使用したい／したくないという意思に関係なく、儀礼的にタアーロフを用いなくてはならない場面（儀礼的タアーロフ；後述）が存在する。  
→日本語の「つまらないものですが」に同じ



# 第二部へ進む 前のQ&Aセッ ション

## 事例

- 遠い親戚まで集まるようなパーティーがおこなわれた
- 自分もそのパーティーに出かけたとする



## イラン人は、誰に対してどのような タアーロフをするのでしょうか？

- 最もタアーロフが多く使われる場面は、パーティーに関連した場面
- ホスト側
- ジェンダーとしての使い分けは存在するのか？
- 特定の役職に対してタアーロフを使う／使わないと決めていることはあるのか？

## タアーロフから 学ぶ

学術的な視点からペルシア語と日本語の待遇表現  
の面白さを探る

# レザーイー先生より

レジユメを参照



# Persian

Culture

Tarof  
An Iranian Etiquette and Hospitality Code  
Part 1



شما بفر مایید ، بزرگتر ید  
You go ahead, you are older

## タアーロフの先行研究をしてみま しょう (吉枝1994, 1997)

### ①タアーロフ例

A: shoma qadamranje konid-o manzel-e ma tashrif biyarid.

「(どうぞ)家にいらして下さい。」

B: bale, sare forsat khedmat miresam.

「はい、機会があれば伺います。」

### ②敬語 (非タアーロフ) 例

A: aqa-ye B, panj shambe shab khune-ye ma ye mehmaniye. lotfan shoma tashrif biyarid.

「Bさん、木曜の晩、私の家でパーティーがあるんです。どうぞいらしてください。」

B-1: chashm, hatman khedmat miresam.

「はい、必ず伺います。」

B-2: bebaxshid, mota'assefane panj shambe kar mikonam, nemitunam biyam, enshalla forsate dige xedmat miresam.

「すみません、木曜の晩は仕事があつて、行けません。また次の機会に伺います。」

## タアーロフとペルシア語の敬語との違い

- ①②ともtashrif avardan「いらっしゃる」という敬語が用いられている
- ①は建前のタアーロフとしての機能が働いていた例
- Bは、Aがたとえそのような申し出をしたとしても、AはBを実際に招待する気はないことを察知し、また、BもAの招待を受ける気がないことを表明している例
- ペルシア語の敬語は基本的に、話し手と聞き手との上下関係と会話場面の改まりに基づく非相互使用
- 一方、タアーロフは相互使用される
- お互いに似ている点もある

## タアーロフの種類

- ta'arof-e vazife'i (義務的なタアーロフ)  
客の訪問の際に交わされる定型表現を含んだ発話や、物品の授受のやりとり。その場に応じたステレオタイプの待遇表現。
- ta'arof-e dustane (友好的なタアーロフ)  
話者側は誘う意思がないが、形式的に隣人を食事に誘う例
  - 相互作用の際に友好的な雰囲気を設定し、相手と円滑な関係を保っていくための機能 (吉枝,1994)

## タアーロフの種類

- 戦略的なタアーロフ

上下関係に基づくコネ(partibazi)を築く役割を果たしたり、自分が自分の要求を相手に聞かせようとしたりする役割を持っている。

- 空虚なタアーロフ(ta'arof-e tukhali)

## 義務的なタアーロフの例

- A) cheshm-e ma roshan : 招待した客が家に訪問に来た時 ; 「お会いできて嬉しい」 (お会いできて目が輝いた)
- B) khod-etan golid : 客が訪問時に、相手への気遣いとして花束を用意してきたとき ; 「あなたがお花なのよ」 (客が来るのが最高の幸せなのだから、本人が花束を持ってきてホストに気を使う必要はない)
- C) bebakhshid posht-am be shoma-st : (主に車) 乗車する際、前の座席に座った人が後部座席に座った人に言う ; 「私の背中があなたの方を向いていてすみません」
- D) gol posht-o ru nadare : D) に対する返答 ; 「花は前も後ろもありません」 (お気遣いなく)
- E) befarmayid : エレベーターのまえに人が集まった時、目下の者が目上にするケースや、男性が女性に行うケースが最も多い ; 「(お先に) どうぞ」



## 友好的なタアーロフの例①

(KOUTLAKI, 1997)

A (子供の父親、およそ30歳)とD (子供の母親、およそ27歳)はM (ホスト、およそ35歳)の家に来ていた。MはAとDに食べ物を勧めていた。Mは彼らの子供を抱いて、子どもに夕飯を食べさせようとしていた。そうすると子どもが泣いてしまったので、また返してほしいと頼んだが、外国語で会話をしている正しく意図が伝わらなかったのか、子どもを返してもらえなかった。そうするうちにS (女性、およそ35歳)が抱きかかえたのを見て、Aはまた子供を返してもらおうように伝えた。しかし、Sが聞かなかったのをみて、AはDに「子どもを引き戻さなければ」と述べたところ、Mが「心配しないでよ」と言ったので、Aは続けて次のように言った。

A: na ache qaza sard mishe ache vasat-e qaza nemishe ke... na baba vallah na.

「いや、そろそろ食事が冷めてしまう...そろそろ (こんなふうになっているのは) 食卓のまえではやってはいけないことなんだ...だめなんだ、本当に。」

M: khordam tah dig khordam, bokhorid shoma.

「食べましたよ、おこげ食べました。あなたもお食べなさい。」

## 友好的なタアーロフの例①

A: pas man mishinam... ye meqdar-e dige... dige hala ke khanom... zahmat mikeshan.

「じゃあ僕はここに居よう。ほんの少し...ほんの少し座ります、Mさんが (せっかく) 苦労して (料理をして) してくれているのだから。」

D: ache intowri khub nist.

「(Aは座ると言っているけれど、Aのその行為) は良くないことよ。」

...省略...

M: dust dare hala.

「(子供がまた泣いたのを見て) もう (お父さんお母さんのところに帰りたい) かな?」

A e? bashe... bashe...

「え? そうだ... そうだね...」

◆インフォーマントの意見; 「子供が戻らないとみて一旦食事を進めようとするふりをしていただけで、あとあとで子供の面倒を見ようとしていることを考えるとタアーロフであったと言える」

## 友好的な夕アークフの例②

(例文：男性Bは、姪Aとその夫Cのもとを訪れる。AとCはBをもてなしていたが、その日、AとCはこのあとほかの家に行かなければならなかった。しかも、もうすでに約束の時間に遅れていた。)

A. da'i jun, mā emshab khune-ye āqā-ye Vāheb da'vat dārim. Shomā ham tashrif biyārin berim ya inke zang bezanim-o migim nemitunim biyāyim.

「おじさん、私たち今夜はVahebさんに招待されているの。あなたも一緒にいらっしゃってくださいな。それか、相手に電話して、今日は行けないと伝えます。」

B. na, na, man bāyad beram, kheyli kār dāram... tu khune montazeran.

「いえいえ、僕はもう行かなきゃ。仕事もたくさんあって……。みんな家で待っているの。」

・・・省略・・・

## 友好的な夕アークフの例②

C. akhe injuri ke kheyli bade pas ma nemirim ba ham dige inja ye sham-e sade mikhorem.

そんな風にされてしまうのはとても悪いことです。そうであれば、

私たちは（Vahebさんのもとへは）行きません。

一緒にここで軽い食事でもしましょう。

B. na kheyli mamnun shoma tashrif biyarin az un tarafa.

いえ、ありがとうございます。あなたこそうち（Bさんの家）にいらしてください。

C. kheyli mamnun lotf dārin hala ke shoma injain nemimunin hatman bayad ye shab dorost dowre ham bāshim salam beresunin.

ご配慮いただきどうもありがとうございます。いまここにBさんはいらっしゃいますけれど、

Bさんはもう帰られるのですね。必ずまた会いましょう。

みなさんにもよろしくお伝えください。

## 戦略的なタアーロフの例

テヘランのある場所にいた私は、職員に訊きたいと思っていた情報があったが、私がそれを入力できるかは疑問であった。そこで、私よりもはるかに高位であると人々からみなされていた人物であった私の友人が、私を助けてくれることになった。彼は私を事務所の中へ引き入れ、そして私が到着したことをその職員に伝えた。私が一度中に足を踏み入れると、友人は職員に対し、手を尽くして(elaborate)、私を上手の立場に置くような(other-raising)動詞を用いて私を紹介した彼は職員にも同様にother-raisingをするような形を用いていたが、明らかに、私に用いている言葉遣いや、私について言及するときの言葉遣いは、職員に対して向けられたother-raisingよりもはるかに上回っていた。

これに加えて大げさに自分の立場を下げる(self-lowering)ような語彙を用いることで、友人が構築した地位のヒエラルキーを印象付けることに一役買っていた。しかしそのインタラクションには現実性(reality)が全く存在していなかったのだ。そこでは私がヒエラルキーのトップにあって、その職員が中間に、そしてその友人が最下層に置かれていたのである。実際、ある程度じっくり考えてみると、その友人とその職員はほとんど同じ地位にあって、私は相対的に下の立場なのであった。このように少しの賢さ(zerangi)がとてもよく機能してくれたおかげで、私は私の欲しかった情報を、それも遅滞なく、受け取ることが出来た。(Beeman, 1986, p.167)

## 現在のタアーロフ研究史における タアーロフの位置づけ

Koutlaki(1997)はタアーロフの役割を以下のように定義づけている。

- 敬意(deference)
- 謙虚さ(humility)
- 親愛(cordiality)

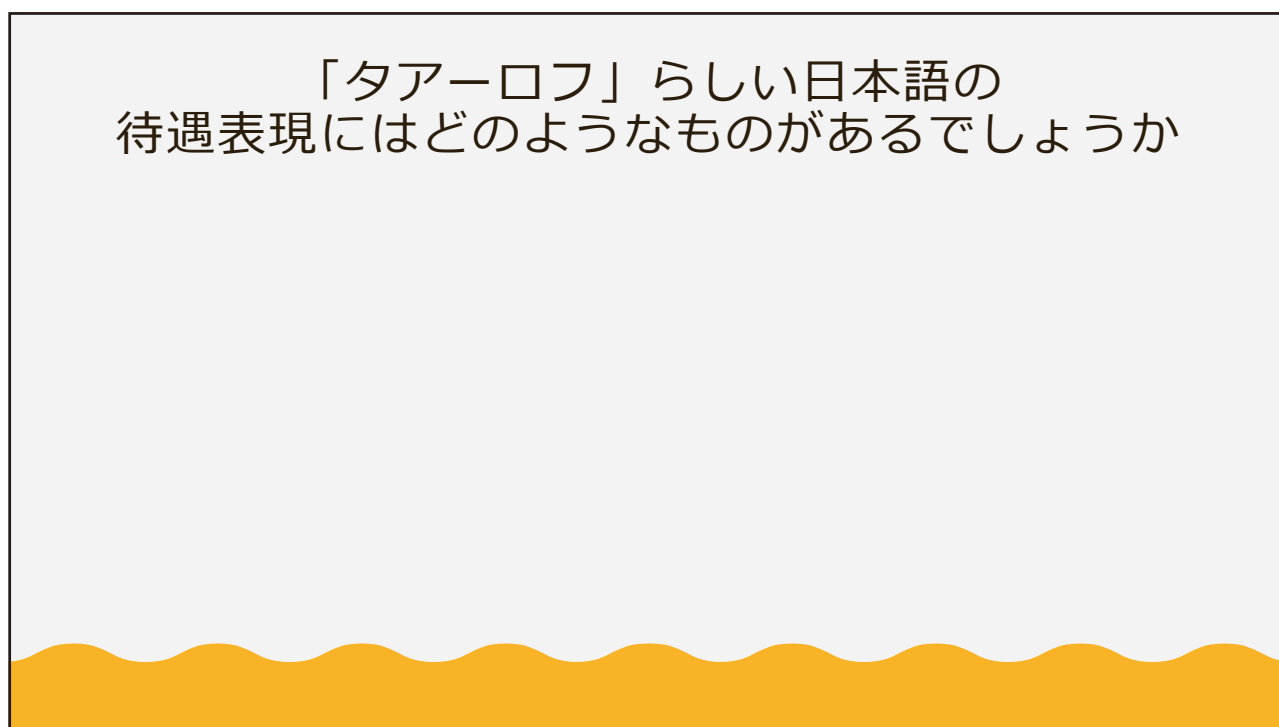
## タアーロフを取り巻く イラン社会の一般的な慣習

- イラン社会には、相手から申し出や招待がなされると、それがどのようなものであったとしても一度は必ず断らなくてはならない、という強い規範が存在する。
  - そのため、拒絶された場合、相手はta'arof nakon（タアーロフをしないで；（遠慮せずに）持って行ってください）かta'arof mikoni?（タアーロフを言っているの？；あなたに期待されているからと言ってそれを断っているのですか？）と述べる
- rudarbayesti（内気；あらたまった様子；誰かの前では儀礼性に従うことが重要であると見做すこと）

## タアーロフを取り巻く イラン社会の一般的な慣習

Rudarbayestiとは？

- インフォーマントの事例—ある若い女性が、遠い親戚に招かれてパーティーに出かけたというが、そこで出された食事にあまり手を付けることが出来ず、わずかしか食べていない状態でホストの家から帰った
- 遠い親戚（インフォーマントから得られた例として、自分がホストからみておじ／お婆の息子か娘であった場合）であれば、このようなふるまいをすることが起こりうる
- 「人においしい食べ物を提供すること、自分たちの中で上等の器具(utensils)を使用すること、タアーロフをすること、家族や物質的・経済的な問題と言った自分の私的な生活の側面について話をすることを避けること」であり、「（話し手—聞き手が）親しい関係になった時rudarbayestiは減少し、消滅する」(Koutlaki, 1997)



## 参考文献

Beeman, W. O. (1986) *Language, Status, and Power in Iran*, Indiana University Press

Brown, P and Levinson, S. C. (1987) *Politeness: Some universals in language usage*. Cambridge University.  
(次を参照：田中典子他(2011)『ポライトネス：言語使用における、ある普遍現象』)

Eslami, Z. R. (2005) *Invitations in Persian and English: Ostensible or genuine?*, *Intercultural Pragmatics*,  
Isaacs, E.A. and Clark, H.H. (1990) *Ostensible invitations*, *Language in Society* 19, pp.493-509. Cambridge  
University Press.

Koutlaki, S. (1997) *The Persian system of politeness and the Persian folk concept of face, with some reference  
to EFL teaching to Iranian native speakers*, University of Wales

Izadi, A. (1397). *کاوشی در وجهه در تعارف ایرانی*. University of Isfahan

Sharifi, S. and 'Abbasiyan, F. (1393) *بررسی بافت شناختی تعارفات واقعی و غیرواقعی در زبان*  
فارسی. Islamic Azad University

井出祥子他(編)(1986)『日本人とアメリカ人の言語行動—大学生の場合—』南雲堂.

吉枝聡子(1994)「Ta'arof研究の現状とその問題点 —社会言語学的視点から—」『オリエント』 pp.87-103  
— (1997)『現代ペルシア語の敬語行動に関する社会言語学的研究—テヘランの場合—』 pp.13-19

ありがとうございました！



▶ Rezai Baghbidi Hassan (大阪大学) 資料

Hassan Rezai Baghbidi  
Osaka University

***ta 'ārof***

(literally 'becoming acquainted' > 'observing the norms'; 'orf' '(social) norm')

**LINGUISTIC and NON-LINGUISTIC behaviours that mark differences in social hierarchy**

**The determining factors are EQUALITY or NON-EQUALITY and INTIMACY or NON-INTIMACY of the participants in an interaction (cf. Beeman 1976: 307)**

1

**A. Linguistic *ta 'ārof***

**“OTHER RAISING” and “SELF LOWERING” through the use of:**

**I. marked lexical forms**

**II. phrases and expressions that emphasize the low, dependent, or even servile status of the speaker, and the exalted status of the addressee**

2

## 'to go'

<b>NEUTRAL</b>	<i>raftan</i>	
<b>OTHER-RAISING</b>	<i>tašrif bordan</i>	<i>tašrif-farmā šodan</i>
<b>SELF-LOWERING</b>	<i>xedmat residan</i>	<i>šaraf-yāb šodan</i>

## 'to give'

<b>NEUTRAL</b>	<i>dādan</i>	
<b>OTHER-RAISING</b>	<i>taqdim kardan</i>	<i>taqdim farmudan</i>
<b>SELF-LOWERING</b>	<i>marhamat kardan</i> <i>mohabbat kardan</i> <i>lotf kardan</i>	<i>marhamat farmudan</i> <i>mohabbat farmudan</i> <i>lotf farmudan</i>

3

## 'I'

<b>NEUTRAL</b>	<i>man</i>
<b>SELF-LOWERING</b>	<i>bande, čaker, in-jāneb, in haqir</i>

## 'you (sg.)'

<b>INTIMATE</b>	<i>to</i>
<b>FORMAL/POLITE</b>	<i>šomā</i>
<b>OTHER-RAISING</b>	<i>sarkār, jenāb-e āli, hazrat-e āli</i>

4

## Tehrāni Persian

(cf. Hodge 1957: 364-365, 368)

		'time'		'you (sg.) come'		
				FAMILIAR	POLITE	OTHER-RAISING
FORMAL	quotative	vaqt		<i>mi'āyi</i>	<i>mi'āyid</i>	<i>tašrif mi'āvarid</i>
	normal					<i>tašrif miyāvarid</i>
INFORMAL	deliberate	vaxt		<i>miyāyi</i>	<i>miyāyid</i>	<i>tašrif miyārid</i>
	colloquial	vax		<i>miyāy</i>	<i>miyāyd, miyāvin</i>	
				I.come'		
				NEUTRAL	SELF-LOWERING	
FORMAL	quotative			<i>mi'āyam</i>	<i>xedmat miresam</i>	
	normal			<i>miyāyam</i>		
INFORMAL	deliberate			<i>miyām</i>		
	colloquial			<i>miyām</i>		

5

### Characteristics of Linguistic *ta'ārof*

- **Abundant Use of Religious Terminology**  
 خدا قوت، یا لایله ما شاه الله، ان شاه الله، خدا حافظ، خدا به هم راهت، برو به ایان خدا، دست حق پارت ...
- **Abundant Use of Poetical and Exaggerated Language**  
 به روی چشم، جای شما روی سر ما سست، پندمولوی می فرمایید، قربان شما، فدات بشم، نوکر تم ...
- **Circumlocution (i.e. Use of Many Words Where Fewer Would Do)**

زنک غله به سدا درسیک، ساحتله کمرتی لاین را بر می خرد و می گوید: پله پلر مایید.  
 میوهان: سلام عرض کردم احمدی هستم.  
 میوهان: به پله سلام چشم ما روشن. آگن خدمت می رسد، دروازه بر می کنه و می گوید: پلر مایید داخل، پلر مایید داخل.  
 میوهان: نه مزاحم نمی شه، گنتم عرض ادبی کنم و احوالتون رو پرسیدم. زحمتی هم براتون دلگش.  
 میوهان: این جویری که همیشه پلر مایید داخل.  
 میوهان: نه مزاحم نمی شه، همین جا خوبه.  
 میوهان: این چه حرفیه، پلر مایید داخل، یه جایی که می تونید با هم بخورید.  
 میوهان: نه به خدا، مزاحم نمی شه، همین جا خوبه.  
 میوهان: تشریف لکتید پلر مایید.  
 میوهان: چشم، حالا که امرار می فرمایید، چشم.  
 میوهان: پلر مایید، منزل خودتان است، در زحمت، خوب بچه ها چطورن؟ غنولده خوبن؟ گلش اوتا رو هم می آورده.

6

## B. Social *ta'ārof*

**Any gesture showing politeness or providing courtesy to others, such as:**

- **allowing a person to go first** (*through a doorway, into the elevator, into the room, etc*)
- **seating a person in a place of honour**
- **offering to pay a restaurant bill**, *etc*

7

**Social *ta'ārof* also includes:**

- **the obligation of a host to offer services or hospitality**
- **the obligation of a guest to refuse favours or hospitality** (*no matter how badly he/she needs them*)

*The host offers the guest to eat more, but the guest thanks the host and pretends to be full.*

*The shopkeeper refuses to take payment by saying *qābel nadāre* 'it is worthless', but the customer insists on paying the price.*

8

## Ambiguity of *ta'ārof*

- **true and sincere**
- **untrue and/or insincere** (sometimes in order to flatter or even to deceive)
  - refusing things one needs
  - saying things one does not really feel or cordially believe
  - inviting others with the hope that they will not accept it

Any inconsistency or lack of harmony between the verbal and non-verbal behaviour of an individual in his/her refusals, suggestions, requests, or invitations (e.g. between the speech and the look or the tone or even the type of laughter) indicates that he/she is doing untrue or insincere *ta'ārof*.

تعارف شاه عبدالعظیمی؛ تعارف خشک و خالی؛ تعارف تکه پاره کردن؛ تعارف آمد نیامد دارد؛ ... ..

9

## Historical and Religious Background

- **Iran's nomadic heritage where guests are always welcomed and looked after**
- **Through Iranian history, the ornamentation of speech and action was necessary for political advancement at the court of the kings**
- **The Shi'a concept of *taqiyyah* (تقیّه), i.e. the concealment of religious belief to escape persecution or threats to life or property.**

10

# Appropriate Interaction

VS.

# Effective Interaction

11

### Select Bibliography

- ایزدی، ل. (۱۳۹۷)، «کاووشی دو وجهه در تعارف ایرانی»، پژوهش‌های زبان‌شناسی، سال ۱۰، شماره ۲ (شماره پیاپی ۱۹)، ص ۶۷-۸۲.
- بردبار، ب. و دیگرن (۱۳۹۸)، «دوراندیشی تعارف‌ها و جنسیت در زبان فارسی: رویکردی شناختی»، پژوهش‌های زبانی، سال ۱۰، شماره ۱، ص ۲۱-۳۷.
- جعفری، ف. و غیائی زارچ، ل. (۱۳۹۷)، «تعارف و روابط اجتماعی ایرانیان: مطالعه موردی تعارف در آموزش زبان فارسی به هنرپان زبان دوم، زبان فارسی و گویش‌های ایرانی، سال ۳، شماره ۱ (شماره پیاپی ۵)، ص ۹۲-۱۱۲.
- خورشیدنامه، ج. (۱۳۸۹)، «در باره تعارف»، برگ فرهنگ، شماره ۲۲، ص ۱۸۲-۱۹۵.
- فایده، ز. (۱۳۹۵)، «کتاب و تعارف در ایران»، پژوهش‌های ایران‌شناسی، سال ۳، شماره ۱، ص ۱۰۵-۱۳۳.
- کوتلاکی، س. (۱۳۹۶)، «دنگامی به پارسی از الگوهای رفتاری و فرهنگی ایرانیان»، تعارف و نظام ادب در فرهنگ ایرانی، مطالعات ایران‌شناسی، سال ۳، شماره ۳، ص ۶۵-۸۸.
- Archer, W. K. and Minoou-Archer, F. (1972), "Some Observations Concerning Stylistics amongst the Persians", in: B. B. Kachru and H. Stehlike (eds.), *Current Trends in Stylistics*, Edmonton, pp. 15-36.
- Beeman, W. O. (1976), "Status, Style and Strategy in Iranian Interaction", *Anthropological Linguistics* 18/7, pp. 305-322.
- Beeman, W. O. (1986), *Language, Status, and Power in Iran*, Bloomington, Indiana.
- Beeman, W. O. (1988), "Affectivity in Persian Language Usage", in: B. Good, M. J. Good, and M. J. Fischer (eds.), *Affect and Healing in Middle Eastern Cultures: Special Issue, Culture Medicine and Psychiatry* 12/1, pp. 403-424.
- Beeman, W. O. (2001), "Emotion and Sincerity in Persian Discourse: Accomplishing the Representation of Inner States", *International Journal of the Sociology of Language* 148, pp. 31-57.
- Boyle, J. A. (1952), "Notes on the Colloquial Language of Persia as Recorded in Certain Rococó Writings", *Bulletin of the School of Oriental and African Studies* 14, pp. 451-462.
- Hillman, M. (1981), "Language and Social Distinctions in Iran", in: M. E. Bonino and N. R. Keddie (eds.), *Modern Iran: The Dialectics of Continuity and Change*, Albany, pp. 327-340.
- Hodge, C. T. (1957), "Some Aspects of Persian Style", *Language* 33, pp. 355-369.
- Jahangiri, N. (2000), *A Sociolinguistic Study of Persian in Tehran*, Tokyo.
- Jasznyry, M. A. (1970), "Observations on Stylistic Variation in Persian", *Actes du X<sup>e</sup> Congrès International des Linguistes III*, Bucharest, pp. 447-457.
- Lazard, G. (1957), *Grammaire du persan contemporain*, Paris.
- Selmani-Nodoushan, M. A. (2005), "A Comparative Sociopragmatic Study of Overt Invitations in English and Farsi", *Pachuhesh-e Zabaniha-ye Khareji* 20, pp. 119-143.
- Sprachman, P. (2002), *Language and Culture in Persian*. Costa Mesa, California.

12



▶ タアーロフ早見表 (作成：杉野紗代)

「タアーロフを知る、タアーロフから学ぶ」付録：タアーロフ早見表

balaa be dur (baashe).	災難が遠のきますように；見舞いの際や災難に遭った人・患者に用いる。
barqaraar (paaydaar) baashe.	(家を留守にする家族の人の場所が) 永遠でありますように。 (jaa-sh khaali nabaashe の返答)
befarmaa' id, dar khedmat baashim.	どうぞ (いつでも) お役に立ちます；御用をお申し付けください。
befarmaa' id kolbe-ye darvishi-st.	どうぞ、托鉢僧の庵 (のようなところ) ですが；来客時に使う。
befarmaa' id kolbe-ye maa raa mozayyan konid.	どうぞ、粗末な小屋を飾ってください；来客時使う。
cheshm-e shoma qashang mibine.	あなたの目が美しく見えているのです；相手が自分の外見を称賛したとき。
okhtyaar daarid, maraahem-id.	とんでもない、ご親切に (mozaahem shodam の返答)。
dast-etun dard nakone.	あなたの手が痛みませんように；ありがとう。
doshman-etun sharmande baashe.	あなたの敵が恥じていますように (sharmande-am の返答)。
bebakhshid ke posht-am be shoma-st.	背中を向けていてすみません。
chaaker-e shomaa hastam.	(私は) あなたの下僕です。
kuchek-e shomaa hastam.	私は (あなたより) 取るに足りないものです (qorbaan-e shomaa の返答)。
khaahesh mikonam.	どういたしまして。
khedmat az maa-st, kheyli mamnun.	私たちこそあなたのお役に立ちます、どうもありがとう (befarmaa' id, dar khedmat baashim の返答)。
khodaa bad nade.	神が悪いことを与えないように；見舞客が患者へ言う。
khodaa biyaamorze.	神が (故人を) お赦しになりますように；故人について言及するとき。
khodaa hefz-et kone.	神があなたをお守りくださいますように；別れ際、旅行に出かける人へ。
khodaa rahm kard.	神様が慈悲をくださった；災難に巻き込まれたが大事に至らなかったとき。
gol posht-o ru nadaare.	花に表も裏もありません (どちらを向いていてもかまいません)。
jaa-sh khaali nabaashe.	寂しくありませんように； 長期の渡航に出かけ、家を留守にする家族の人に対して使う。
jaa-ye shomaa khali (bud).	あなたがなくて (残念でしたが) . . .
manzel-e khod-etun-e.	ここはあなたの家です；どうぞごゆっくり。
mokhles-e shomaa hastam.	私はあなたの心からの友です；話し手が遑りつつ相手との連帯感を示すとき。 口論や弁明の際にも見られる。
mozaahem shodam.	お邪魔しました；(私が居たら) お邪魔ですよ。
omidvaar-am / ensha' allah betunam mohabbat-etun ra jobraan konam.	

	あなたの好意に報いられたらいいのですが。
qaabel-e shomaa raa nadaare.	あなたに相応しいものではありませんが；つまらないものですが。
qadam-etun ru-ye chashm.	あなたの足（歩み）が私の目の上に（おかれた）；ようこそいらっしゃいました。
qorbun-e shomaa.	あなたの犠牲です；ありがとうございます。
saaye-tun kam nashe.	あなたの保護が少なくなりませんように；これからもよろしくお願いします。
saaheb-ash qaabele.	(qaabel-e shomaa raa nadaare の返答として) 持ち主こそが相応しいです。
salaamat baashid.	あなたが健康でありますように(使用は zende baashid に同じ)
sharmande-am.	(私は) 恥ずかしいです。
shomaa khod-etun gol-id, sheraa gol aavardin?	
	あなた自身が花なのに、どうして花を持ってきてくださったのですか； 訪問時に花を土産に持ってきた客に言う。
qam-e aakhar-etun baashe.	あなたの最後の悲しみになりますように；弔問の際に遺族に対して使う。
zende baashid.	あなたが生きていますように；長生きでありますように。 相手が自分のためにしてくれた行為に感謝する表現

※a は/aa/と表記している。

※ここでは、ペルシア語の定型表現はタアーロフであると見做している。

▶ チラシ

TUFS  
apan Studies

東京外国語大学 語学研究所 & 大学院国際日本学研究院 (NINJAL ユニット) 共催

朝日祥之准教授 離任研究会

# タアーロフを知る, タアーロフから学ぶ

ペルシア語と日本語の待遇表現に見られる面白い関係性

日時 : 2020年2月8日(土) 13時~15時  
会場 : 府中キャンパス 研究講義棟 320 (会議室)

プログラム :

- 13:00-13:05 趣旨説明
- 13:05-14:00 第一部 : タアーロフを知る
- 14:00-14:55 第二部 : タアーロフから学ぶ
- 14:55-15:00 閉会の挨拶

● 講師

**Rezai Baghbidi Hassan:** 大阪大学大学院言語文化研究科ペルシア語専攻特任  
准教授。専門は、歴史言語学、ペルシア語学、ペルシア語史。

**杉野紗代:** 東京外国語大学大学院 博士前期課程院生

**朝日祥之:** 国立国語研究所、東京外国語大学 (NINJAL ユニット)

NINJAL  
国立国語研究所  
&  
東京外国語大学

[お問合せ] 東京外国語大学 国際日本学研究院 TEL 042-330-5829 caas\_admin@tufs.ac.jp



## 編集後記

朝日 祥之 准教授（国立国語研究所）

研究分野：社会言語学

朝日祥之准教授は、国立国語研究所（NINJAL）とのクロスアポイントメント制度により、2018年4月～2020年3月まで東京外国語大学大学院国際日本学研究院に在職されました。その間の担当科目（教育活動）ならびに講演会は以下のとおりです。

① 担当科目：大学院総合国際学研究科 博士前期課程

- 2018 年度春学期 [科目名] Japan Studies 1  
[講義題目] 社会言語学概論
- 2018 年度秋学期 [科目名] Japan Studies 2  
[講義題目] 接触言語学の諸相
- 2019 年度春学期 [科目名] Japan Studies 1  
[講義題目] 社会言語学概論 1
- 2019 年度秋学期 [科目名] Japan Studies 2  
[講義題目] 社会言語学概論 2

② 特別講演会

- 2018 年 5 月 11 日（於東京外国語大学 語学研究所 LUNCHEON LINGUISTICS）  
題目「人の移動の社会言語学：日本語をめぐる事象を中心として」
- 2018 年 9 月 28 日（於 2018 年 博士後期課程 講義内での講演）  
題目「戦時中のアメリカにおける日本語教育」
- 2018 年 10 月 19 日（於 2018 年度国際日本学研究院 連続講演会第 2 回での講演）  
題目「多様化の進む地域社会における日本語を見つめる研究」
- 2019 年 9 月 24 日（於 2019 年 博士後期課程 講義内での講演）  
題目「ハワイへの日系移民史における日本語の役割」
- 2020 年 1 月 23 日（於 2019 年度国際日本学研究院 連続講演会第 4 回でのコメンテーター）  
講演者：劉セイラ「海を越えて活躍する声優—2 か国で、声で演じるということ—」
- 2020 年 2 月 8 日（於東京外国語大学 研究講義棟 320）  
題目「タアーロフを知る，タアーロフから学ぶ：  
ペルシア語と日本語の待遇表現に見られる面白い関係性」

東京外国語大学 国際日本学研究所 報告 XI

Print: ISSN 2432-5708  
Online: ISSN 2433-9830

朝日祥之 (国立国語研究所)

Yoshiyuki Asahi (NINJAL) at TUFU, 2018 年～ 2020 年

-----  
発行：2021 年 3 月 25 日

編集：東京外国語大学 大学院国際日本学研究所 CAAS&NINJAL ユニット事務局

発行者：東京外国語大学 大学院国際日本学研究所 研究院長 川村大

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1 東京外国語大学

アゴラ・グローバル 2 階 国際化拠点室

TEL 042-330-5534

FAX 042-330-5822

Email [caas\\_admin@tufs.ac.jp](mailto:caas_admin@tufs.ac.jp)

©Tokyo University of Foreign Studies, Institute of Japan Studies





東京外国語大学 大学院  
国際日本学研究院

Institute of Japan Studies,  
Tokyo University of Foreign Studies